



千葉大学医学部同窓会報 第167号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みの は な 同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 みの は な 同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内 みの は な 同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/

平成26年度 みの は な 同窓会総会開催

平成26年度 みの は な 同窓会総会が、平成26年6月14日 (土) 午後3時より、千葉大学附属図書館亥鼻分館ラ イブラリーホールにおいて開催された。



白澤浩理事の司会により、伊藤晴夫会長から開会の辞が述べられた。会議に先立

つて、物故者75名の冥福を祈り黙祷を捧げた。伊藤会長は挨拶に続いて、白澤理事より会務報告があった。各議事については鈴木信夫副会長、田邊政裕理事、白澤理事、幡野雅彦理事から説明があり審議承認された(議事要旨は27面に掲載)。

総会に引き続き、平成26年度 みの は な 同窓会賞の表彰式(関連記事は7面に掲載)と徳久剛史千葉大学長の特別講演が行われた(講演内容は2面に掲載)。



会長挨拶

式典、総会のご報告をかねて

伊藤 晴夫 (昭39)

の は な 同窓会の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

先般、目出度く新の は な 同窓会館の完成をもちまして一応の節目となりました。千葉大学医学部創立135周年記念事業に関しましては、日本経済が最悪な状況にあったにも拘らず、多くの方々から寄付を戴きました。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。立

派な記念誌が刊行され、また千葉大学の理念の言語化も素晴らしいロゴやシンボルマークに実を結びました。新の は な 同窓会館の完成記念式典は2月9日に開催されました。前日の記録的な大雪で交通事情が極めて悪かったにも拘らず多くの方にご出席戴きました。記念講演は「箴言『獅胆鷹目行以女手』の日本への伝播とその漢訳者」と題して日

本医史学会理事の松木明知先生により行われました。本学に関係の深い箴言についてのお話一同多大の感銘を受けました。同窓会事務局も医学部本館から新同窓会館内に移転いたしました。猪之鼻奨学会、千葉医学会の事務所も入りました。ご来葉の折にはお寄り戴ければ幸いです。電話は今まで通り043-202-3750です。何かありましたらご連絡頂ければと思います。新同窓会館は学生、卒業生、教職員によって頻繁に使用されておりです。特に学生からは感謝の言葉も寄せられ、嬉

しいかぎりです。

平成26年度の総会は6月14日に開催され、新同窓会館で懇親会が開かれました。今回で第2回目の社会貢献賞の授賞式も行われました。受賞者の河内文雄先生(昭50)「待合室から医療を変えようプロジェクト」と篠宮正樹先生(昭50)「市民に正しい医療情報を提供し、自ら生活習慣病を予防する示唆を提供する」の示唆に富むお話を伺い一同大いに触発されました。特別講演は徳久剛史新学長が「千葉大学の将来構想」と題して、これまでの千葉大学および医学部の歩み及び先生の目

指す意味的な取組について話されました。大変勇気づけられるお話でした。先生のリーダーシップの下、千葉大学のさらなる発展が期待されます。

同窓会執行部・事務局では、卒業 Half century 会員の表彰、学生白衣式の支援、教授・役員全員との卒業記念写真パネルの作成、同窓会報のカラー化や誌面充実、動画掲載などホームページの拡充、その他の各種事業の立ち上げなど活性化を図っております。更に、有志による活性化検討委員会からの提案を受けてなお一層の飛躍を期したいと考えます。

皆様には引き続きのご協力ご支援をお願い申し上げますとともに、ますますご健勝にてご活躍されますようお祈り申し上げます。

祝 叙 勲

平成25年 秋の叙勲 瑞宝 双光章

小林 清房(昭27)

平成26年 春の叙勲 旭日小綬章 中澤 弘(昭31)

瑞宝小綬章 中田 義隆(昭36)

瑞宝小綬章 角田 興一(昭40)

第19回(2014年度) みの は な 同窓会賞 授賞者決定

社会貢献賞

河内文雄

(稲毛サテイクリニック、昭50)

「待合室から医療を変えようプロジェクト」

篠宮正樹

(NPO小象の会代表・西船内科、昭50)

「市民に正しい医療情報を提供し、自ら生活習慣病を予防する示唆を提供する」

紙面紹介

総会開催	1
会長挨拶	1
特別講演	2
就任挨拶	3
叙勲感想	5
同窓会賞受賞	6
最終講義	7
名誉教授から	8
各地のみの は な 会	11
クラス会	10
研修プログラム	12
研修医だより	15
課外活動団体だより	17
著者紹介	20
地区のみの は な 会報	21
議事要旨	22
雑文雑談	23
人事異動	24
オンライン会報	25
会館設立	26
編集後記	27
	28
	29
	29
	30
	31
	32
	38
	40

なのはな同窓会総会

特別講演

「千葉大学の将来構想」

国立大学法人千葉大学長

徳久剛史 (昭48)



新制千葉大学は、昭和24年に医学部、薬学部、工学部、工芸学部、園芸学部の5学部でスタートしました。その後、日本の経済成長と人口増加という追い風を受けて順調に発展し、現在では9学部（文学部、教育学部、法政経学部、理学部、工学部、園芸学部、医学部、薬学部、看護学部）、11研究科（学府・研究院含む）を有する大規模総合大学になっています。千葉大学は、その前身の時代から研究活動を通して優れた人材を養成し、もって社会の発展に貢献することを第一の目標にしてきました。その目標実現のために、学部や研究科の専門性や職種等の壁を越えて自由な発想で議論し改革をすすめてきました。このオープンかつ垣

根の低い部局間交流が、千葉大学における特色ある融合型教育・研究を推進する原動力になっています。この特色を最大限に展開させて、教育面では「つねに、より高きものをめざし」、広い視野をもって何事にも誠実に取り組む国際的な人材の育成を目指しています。研究面でも、学問の多様性を尊重しつつ、世界レベルの基礎研究や応用研究を強力に推進し、千葉大学のグローバル化とイノベーション機能の強化を目指しています。

現在の日本は、少子高齢化やグローバル化の急激な進展、経済・財政状況の悪化など、社会を取り巻く環境が著しく変化しています。そのため千葉大学でも、このような状況に的確に対応するための組織改革が必須となる状況となっています。特に平成16年の国立大学法人化以降は、文部科学省からも国立大学のあり方や運営体制の変革が強く求められ

ています。そして、文部科学省は平成25年11月に国立大学改革プランを公表し、平成25年度からの3年間で第3期中期目標期間（平成28年度から6年間）に向けた改革加速期間と位置づけ、大学が自ら改善・発展する仕組みを構築するために、取り組みむべき改革の方針や方策を示しています。千葉大学もこの改革プランにそって、大学の強みを活かした機能強化に向けて改革を推進しています。

千葉大学の機能強化に向けた特色ある改革のひとつとして、西千葉キャンパスの附属図書館に新設されたアカデミック・リンク・センターがあります。このセンターではアクティブラーニングを中心とする教育システムが整備されています。また、平成24年度から文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択され、国際日本学などのカリキュラムにより教養教育面でのグローバル化を加速させています。平成26年度には、さらなるグローバル化に向けてスパーグローバル大学創成事業への申請や、教育改革としてリベラルアーツを中心として人間力の育成を目指した「教養学部」の新設を計画しています。さ

らに、平成27年度末までに稲毛にある学生寮を、留学生と一緒に居住するような新しいタイプの学生寮に建替える計画です。大学院教育面では、平成22年度から西千葉キャンパスや松戸キャンパスの各部局が文部科学省の大学の世界展開力強化事業からの支援（3件）を受けて、海外の大学とのダブル・ディグリープログララムなどによりグローバル化を加速させています。

亥鼻キャンパスにおける機能強化に向けた改革としては、施設面では平成25年度に医薬系総合研究棟の第2棟が新築され、薬学部の西千葉キャンパスからの移転が完了しました。医学部附属病院も平成20年度に新病棟（ひがし棟）が、平成26年7月には新外来棟が新築され、次の中央診療棟の新築に向けて機能強化が加速しています。附属病院ひがし棟には、シミュレーターを用いた教育施設としてクリニカル・スキルズ・センターや先進医療などをおこなう未来開拓センターなどが併設されています。そして、いよいよ医学部新棟の建設に向けて文部科学省との折衝が始まっています。医学部新棟は附属病院に隣接させて建設し、医学部本



改修された 医学部創立85周年 記念講堂



館（旧病院）は一部を改修して総合教育棟として残そうと計画しています。その他、平成26年2月に医学部創立135周年の記念事業の一環として新なのはな同窓会館が附属図書館亥鼻分館の隣に新築されました。また、医学部創立85周年の記念事業として建設された医学部記念講堂も、文部科学省の支援により改修工事が行われ平成26年10月（予定）よりリニューアルオープンします。

教育・研究面での改革としては、医薬看3学部の学生が一緒に学ぶ学部教育（亥鼻 I P E : Inter Professional Education）や、医薬系と看護系それぞれの大学院で「博士課程教育リーダーシッププログラム」が実施されています。また、平成25年度から文部科学省の国立大学改革強化推進補助金を得て「未来医療教育研究機構」を設置して亥鼻キャンパスにある医療系学部の研究面での機能強化に向けた改革を加速させています。

医学部附属病院でも、平成24年度から厚生労働省の臨床研究中核病院の指定を受けて、ますます盛んになる臨床研究の高度化を図っています。このように亥鼻キャンパスは、医療系学部に特化した機能的なキャンパスへと変貌を遂げているばかりでなく、学生の教育環境も着々と整備されており、なのはな同窓会の諸兄におかれましても、これまでと変わらぬ御支援と御鞭撻をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

就任挨拶

千葉大学大学院医学研究院

粘膜炎免疫学 教授
植松 智 (大阪市大・平9)



平成26年6月1日付けで、千葉大学大学院医学研究院分化制御学の徳久剛史教授の後任として着任致しました。伝統ある医学部の一員として研究、教育に携わる機会を賜りましたこと、心より感謝を申し上げます。

私は、平成9年大阪市立大学医学部を卒業後、故森井浩世教授が主宰されていた大阪市立大学医学部第二内科(内分泌代謝学)に入局しました。初期臨床研修後、大学院ではノックアウトマウスを使ったダイナミックな免疫研究がしたいと思いい、平成12年に大阪大学大学院医学系研究科に入學し、微生物病研究所の審良静男教授の研究室の門を叩きました。私の入学当時は、後にノーベル賞の受賞対象となるToll-like receptorの

招聘して頂き、自分の研究室を持つことが出来ました。センター長であり、日本の粘膜炎免疫学の始祖である清野宏先生のサポートのおかげで、これまでの腸管の自然免疫細胞の研究を進展させて、新しいワクチンアジュバントの研究や放射線腸障害の解析を行うことが出来ました。今後は、システムバイオロジーを取り入れながら、免疫応答を正にも負

千葉大学

予防医学センター
環境健康学研究部門 教授



平成26年4月1日付けで着任しました。

私は、昭和58(1983)年に千葉大学医学部を卒業し、公衆衛生学教室(吉田亮・安達元明教授)に研究生として籍を置きながら、当時、救急車の受け入れ台数が千葉市内で最も多く、ローテート研修も受けられた市中病院で初期研修を始めました。プライマリ・ケ

にも制御出来る技術を開発したいと思えます。千葉大学医学部は多田富雄先生を輩出された日本の免疫学の名門です。この伝統に恥じない研究成果を目指すとともに、優秀な医学者、clin. scientistsを養成出来るよう努力して参りたいと存じます。今後とも、同窓会の皆様のご指導、ご鞭撻、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

近藤 克 則 (昭58)

ア医時代にまとめた「当直医マニュアル」(医歯薬出版)などマニュアル3部作は改訂を重ね累積30万部を超えています。その後、東京大学リハビリテーション学部で専門研修を受け、千葉県下で4人目のリハビリテーション科専門医となりました。「脳卒中治療ガイドライン」に複数引用されている臨床研究の成果は、「脳卒中リハビリテーション」(医歯薬出版、第3版、2013)や「高齢者の終末期ケア」(中央法規、2010)などにまとめました。1997年に政策研究を

志向して日本福祉大学社会学部助教授として赴任しました。University of Kent at Canterbury (英国)への留学体験から「日本でも医療崩壊が起きかねない」と危惧し「医療費抑制の時代」を越えて「イギリスの医療・福祉改革」(医学書院、2004)を出版しました。その危惧は2006年頃から顕在化し、高齢者医療制度改革会議(厚生労働省)の委員となる契機となりました。所得や学歴をはじめとする「健康の社会的決定要因」を解明する社会疫学研究を「健康格差社会―何が心と健康を蝕むのか」(医学書院、2005)にまとめ、同書で社会政策学会賞(奨励賞)を受賞しました。

の関連を検証しました。それらは「健康日本21(第二次)」など厚生労働政策に「健康格差の縮小」や「ソーシャル・キャピタル(人々のつながり)」「健康な地域づくり」などが取り上げられる一つの根拠となりました。

常陽学園東京医療学院大学

保健医療学部
リハビリテーション学科 教授



この4月に常陽学園東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科教授に就任いたしましたのでご挨拶させていただきます。私は在学中授業に出るよりも、社会医学研究会の部

までの健康格差やソーシャル・キャピタル、保健・医療・福祉政策を中心とする政策研究を進展させ、「健康の社会的決定要因」に着目した環境改善型の予防医学のエビデンスづくりに努めます。一方、3次予防では、既に抱えている生活機能・QOL低下などの予防のため、介護予防やリハビリテーション、終末期ケアなどの研究を続けます。医学研究院や2016年に開設予定の予防医学専攻で、後進の育成にも関わります。ご支援とご協力をお願いします。

鴨下 博 (昭50)

活動に精力を注ぐ学生でした。そのフィールド活動の体験から1975年3月に本学を卒業後リハビリテーション医学の道に進み、以来リハビリテーション医療に従事してきました。本年3月末東京都を定年となり東京都保健医療公社多摩北部医療センター(着任時は東京都多摩老人医療センター)リハビリテーション科を退職いたしました。数年

前に知人から依頼があり大
学設置の準備をお手伝いし
ていましたが、定年退職を
機に教職の道に進むことに
なりました。これは一つに
は、卒業以来多年に亘って
指導鞭撻の労を吝まれなか
った諸先生並びに知友諸君
の高助によるものであり、
また一つには、リハビリテ
ーションを愛する方々の支
援によるものです。先ず何
よりもこの方々に衷心より
感謝を捧げさせていただきます。

理学療法士、作業療法士
養成の単科の大学であり、
3年前に開学した新設大学
です。大学では4月からリ
ハビリテーション概論とリ
ハビリテーション医学を、
そして10月からは神経内科
学を担当します。リハビリ
テーションの先達ラスク先
生は、「Not only to add
years to life, but also to
add life to years.」と言われ
ました。リハビリテーショ
ン医学はADLからQOL
へと発展しています。講義
では知識だけでなく生活に
役立つリハビリテーション
を、リハビリテーションの
実践に役立つ神経学を伝え
るよう心がけております。
また、現在、週一回多摩北
部医療センターリハビリテ
ーション科の外来を担当し、

一般外来、地域リハビリテ
ーション、高次脳機能障害
自立支援に従事しておりま
す。

多摩老人医療センター、
都立から公社に移管した多
摩北部医療センターの計11
年間東京都の地域リハビリ
テーション支援事業に取り
組み、行政と医療機関の連
携による地域にあるリハビ
リテーション資源のネット
ワーク構築に取り組んでま
いりました。実態調査の結
果事業開始前と11年後では
北多摩北部二次医療圏内の
脳卒中発症後の生活状況は、
全介助群が29・6%から
19・6%に改善してしまし
た。この結果は、本年度の
日本リハビリテーション医

学会学術集会で発表しまし
た。学問を講義することに
は内心忸怩たるものがあり
ますが、リハビリテーショ
ン医療で何が大事なのか、
何を学ばなければならぬの
かを学生に伝えることが
私の役割かと自覚していま
す。

私は30歳台の時、第一生
理学教室の研究生となり誘
発脳波の研究に取り組んで
いました。研究のまとめに
苦しみながら成果を出しえ
たとき、有形無形の手助け
を受けた母校の有り難さを
実感いたしました。新米の
教師ではありますが、卒業
生に愛される母校に育つよ
う学生とともに努力してい
ます。

東京女子医科大学

東洋医学研究所

伊藤 隆 (昭56)



平成26年4月1日付けに
て東京女子医科大学東洋医
学研究所教授に就任しまし
た。ののほな同窓会の諸先
生、諸先輩方のご厚情の賜

物と感謝申し上げます。
私は昭和56年に卒業後、
学生サークルの千葉大学東
洋医学研究会の先輩であら
れる寺澤捷年先生が主宰す
る富山医科薬科大学附属病
院和漢診療室(現富山大学
医学部和漢診療学講座)に
入局いたしました。先生は
富山に行かれてまだ2年目
でした。「お前でも役に立

つ」とのお言葉にその気にな
って、医局最初の研修医
となりました。その後、和
漢診療学講座には、富山大
学卒業生を主とした多くの
医師が入局し、国立大学医
学部で最初の漢方医学の講
座へと成長しました。私は
平成7年同講座准教授、平
成11年同大和漢薬研究所漢
方診断学部門客員教授の後、
平成13年より茨城県の鹿島
労災病院和漢診療センター
に13年勤務いたしました。
私が求めてきた東洋医学
は今日の「総合診療」に近
いものです。かねてより東
洋医学は西洋医学と平行し
て学んでいくべきと考えて
おりましたが、この希望は
鹿島で初めてかなえられま
した。同院は病棟で煎じ薬
が処方できる、本格的なシ
ステムを構築して迎えて頂
きました。病院より求めら
れた主な課題は前半はメン
タルヘルスセンター、後半
は総合内科と副院長でした。
メンタルヘルス不調者に対
しては、漢方だけでなく、
臨床心理士と鍼灸師の導入
により、新たなアプローチ
を試みました。内科診療で
は千葉大学より派遣して頂
いた若い各科専門医の方々
に支えられて、多領域の患
者の診療を担当できました。
その中で、漢方の優れた臨

床効果を経験するという、
誠に幸せな時代でした。副
院長としては、医師減少の
嵐の中、現代医療の様々な
問題に翻弄され続けた一方
で、漢方診療がへき地病院
の医師集めに一定程度貢献
できることも知りました。
この貴重な経験を若い医師、
医学生に伝えられる機会を
頂いたことに感謝していま
す。

**NPO法人日本口腔科学会
(日本医学会第31分科会)
理事長就任のご報告**

千葉大学大学院医学研究
院先端がん治療学講座口腔科学

教授 丹沢 秀樹 (昭57)



平成26年5月から、歴史
ある日本口腔科学会の理事
長を拝命いたしました。
本学会の歴史は長く、大
正2年(1913年)に東
京大学医学部歯科学講座に

端駅北口徒歩1分のビル3
階にあります。鍼灸治療施
設も併設されており、漢方
治療と合わせて、現代の医
療で対応しきれない多くの
患者を診療しています。日
本で最も医師の少ない地域
から最も多いところへ移っ
たわけですが、富山と鹿島
での経験を活かした、東西
両医学による「総合診療」
を実践していく所存です。
同門の先生方には、今後と
もよろしくご指導ご支援を
賜れますようお願い申し上
げます。

歯科医学懇話会が設置され
たことに始まります。5年
後の大正7年(1918年)
には日本歯科口腔科学会に
改称され、翌年には日本歯
科口腔科学会誌が創刊され
ました。その後、太平洋戦
争により活動が一時中断さ
れましたが、終戦後間もな
い昭和21年(1946年)
には活動を再開し、名称を
現在の日本口腔科学会に改

め、翌昭和22年に戦後第1
回目の総会・学術大会が開
催されています。その後、
全国の医学部および歯学部
の協力を得て回を重ねてま
いりました。平成16年(2
004年)には特定非営利
活動法人となり、現在に至
っています。

本学会の目的は、口腔科
学に関する基礎的・臨床的
研究を幅広く進め、医学・
歯学の進歩と発展に貢献し、
学術文化および医療福祉に
寄与し、もって国民の健康
増進を図ることであり、そ
のためには、学術的に高度
で広い視野から口腔領域の
疾患や現象をとらえること
のできる若手人材の育成を
欠かすことができません。
この目的の達成に向けて、
毎年、全国的な学術集会和
6地方部会主催の学術集會
を開催するとともに、日本
口腔科学会雑誌(和文誌)
を年4号、Oral Science
International(英文誌)を
年2号発刊し、口腔科学の
活性化に貢献しております。
日本口腔科学会は日本医
学会の分科会であり、会員
は口腔関連の各専門領域の
研究者・教育者・臨床医か
ら成り、そのほとんどは歯
科医師ですが、医師、DHC
などの参加も多く、会員数
は3800名を越えていま

す。歴史的にも、日本歯科医学会が昭和24年に創設され、昭和35年に専門分科会が組織されるまで、日本の医学界における歯科学を支えた基盤学会として大きな役割を果たしました。100年余の長い学会の歴史において、歴代理事長は旧帝国大学系大学が東京医科歯科大学の直系の方が歴任されておりました。私たちの主要参加校でしたので、この意味からも、今回の私の理事長就任を、多くの教室同門会関係者、および千葉大学関係者の皆様に慶んでいただきました。

残念ながら、昨今、臨床研究だけでなく、基礎研究における不正が大きく報道され、わが国の基礎・臨床、両面における研究の質について世界から厳しい目が向けられています。私達、医学関連研究者は、もう一度その原点を再確認しなければなりません。それは、「全ては患者のために」という非常に単純なものであったはずですが。主治医や医療従事者であるからこそ、苦しんでいる患者のことを一番理解できるはずであり、理解できるからこそ、研究や臨床に熱い情熱を燃やすことができるのです。この原

点に立ち返り、学会活動により、「医・研究の倫理」をしつかりと支えなければなりません。100年の歴史のある基盤学会である本学会の新たな世紀への門出に当たり、

医学・歯学の発展ならびに国民の健康増進に寄与するために、微力ではございますが、精一杯努力する所存でございますので、皆様のご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

この度、多くの同窓の先生方のご支援・ご高配を賜り、平成26年6月15日に開催された、第143回千葉県医師会定時代議員会にて選挙の末、第22代千葉県医師会長に選出されました。

公益社団法人
千葉県医師会
田 焜 陽 一 郎 (昭46)



まずはこのことに対し、誌面を借りまして、ゐのはな同窓会の先生方に多大なる感謝を申し上げます。ここで少し千葉県医師会の現状や課題についてご報告申し上げます。

国家戦略特区による本県成田市への医学部新設について、大変重要な問題と位置付け、日本医師会や全国医学部長病院長会議等、他

の団体と共に千葉県医師会では断固反対していく所存です。次に、千葉県医師会新会館建設の件についてですが、工期に大幅な遅れも無く順調に進んでおり、平成26年9月20日に竣工予定となっております。医師会として解決すべき課題・問題は他にも山積しておりますが、その都度最善の方法を模索し対処していきたいと思っております。

焜 陽 一 郎 (昭46)

を解散することになり、昭和22年11月に新生医師会として、社団法人千葉県医師会が発足し再スタート致しました。平成25年4月1日には、特例民法法人としての社団法人千葉県医師会から、公益社団法人千葉県医師会として申請・認可され現在に至っております。

千葉県医師会は、約4800名の会員を有し、会長、副会長3名、理事12名、監事3名の役員からなり、大きく分けて13の事業を行っております。役員を選出については、代議員制を採用しており、23の地区医師会と千葉大学、千葉県、国立病院の併せて26ブロックに分かれ、それぞれの地区で、会員40名につき1名の代議員を選出しており、平成26年6月時点で135名の代議員の先生がいらっしゃいます。その代議員の中で、千葉大出身の先生は、31名となっております。また、千葉大出身の千葉県医師会役員として、S42年卒の西牟田敏之先生(理事)が大変ご活躍されておりますが、千葉大出身の役員は西牟田先生と小生の2名だけです。日本医師会では、千葉大出身の石川広己先生(千葉)、道永麻里先生(東京)が常任理事として大変ご活躍さ

れておりますが、より多くの先生方に医師会活動を通じてご活躍いただくために、この場を借りて医師会活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。多数の千葉大出身の先生方が医師会へご加入いただき、更なるご活躍をなされることを切望致します。

最後になりますが、ゐのはな同窓会におかれましては、千葉大学と医師会の橋

受 章 の 挨 拶

旭日小 綴 章

叙 勲 に 寄 せ て



三年前、母校同窓会賞功労賞を戴き、深く感謝しております。春の叙勲の榮に浴しました。思えば、横須賀米海軍病院インターンを経て渡米して、早くも57年目になりました。その間当地にて一般外科レジデントを終了し、1962年から開業いたしました。僭越ながら「ゐのはな同

渡しの役割を担っていたことにより、千葉県の医療、そして、日本の医療がより良い方向へと進んでいければとも考えております。再掲でございますが、本件について御支援・御指導を賜りました関係者各位に心から感謝を申し上げますと共に、同窓の皆様御健勝と一層の御活躍を祈念いたします。挨拶とさせていただきます。

中 澤 弘 (昭31)

窓会報」にこちらの様子を含めて、私の「回想録」を2002年から2003年(第130・131及び132号)にかけてのせて戴きました。その第一部は懐かしい学生時代、第二部は渡米してからの大変だった時期を書きました。と同時に医師会の仕事や、地域社会、更に日米関係の所謂草の根外交の一端にも力を盡しました。アメリカは、私に良くしてくださったという感謝の気持ちがありましたので、これを日本と結びつけたいという気持ちがあったと思

います。第三部は、私事になりましたが、ふとしたことから東洋医学に魅せられて深入りし始め、次第に西洋医学との統合を夢見るようになりました。その統合医学は幸いにジョンズホプキンスの二、三の先生方が私の鍼に興味を持たれて(勿論、患者の口コミが少なからずですが)難しい患者を送って下さって、コミュニケーションが始まった訳ですが、西洋医学の牙城にいる先生方が何処迄一緒にやって下さるか判りませんが、私は私なりの成果を患者を通して示さねばなりません。今の処一歩一歩前進していると思っております。

この度の叙勲の理由のひとつに、日本医学、医師との交流に貢献したとありますが、私にとつては、これからだと思います。日本の若い医師に真剣になって世界を見て戴きたいと心から願って居ります。私の医師会での仕事は、今はリーダーから一会員に戻って、若い医師たちへのサポートを続けています。また鍼医学そのものも、日本の医家のための鍼講座とセミナーを毎秋、浜松と東京で続け、今年で15周年を迎えます。また、川崎市と私のボル

チモア両市の姉妹都市も市民の皆様のご協力により、35年目を迎えました。私達はこれを記念して4月に「Japan Festival」を打ち上げ、日本からは桜の女王も参加されて、大盛況の裡に終えることが出来ました。私のモットーは「小さな成功」を少しずつ積み上げることです。これを心の糧

旭日双光章

叙勲挨拶



平成二十五年秋の叙勲にさいしまして、はからずも旭日双光章受章の栄に浴しました。

これもひとえに皆様の長年にわたる心温かいご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

今後は、この荣誉に恥じることなきよう一層精励し、些かなりともご芳情に報いたいと存じますので、何卒倍旧のご厚誼ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

にして、これからも一日一日を大切にしていける積りで皆様のご健康と同窓会のご発展を遙かに祈って居ります。

ときはいま ところあし
もと そのことに
うちこむいのち とわの
みいのち (大西洋岸にて)

福田武隼 (昭42)

略歴

昭和42年3月 千葉大学医学部卒
昭和43年4月 東京女子医大消化器病センター入局

昭和51年9月 真岡胃腸病院院長

平成元年11月 福田記念病院理事長・院長

平成4年4月 栃木県私的病院協合理事

平成5年6月 栃木県医師会常任理事

平成6年4月 栃木県病院協合理事

平成10年4月 栃木県私的病院協常任理事

平成13年5月 会 副会長
真岡市長(以降二期在任)

平成14年4月 名譽院長
福田記念病院
栃木県私的病院協
会 顧問

平成14年6月 全国市長会評議員

平成17年5月 全国市長会関東支部 理事

賞
真岡市長表彰(三回)

瑞宝小綬章
多くの人たちのお蔭で
瑞宝小綬章を受章しました



本年春の叙勲で瑞宝小綬章をいただきました。推薦理由に、筑波メディカルセンター病院長としての功勞によるとありました。

思えば、千葉で1955年の大学入学から1977年に筑波大学に移るまでの22年間を、その後の37年間はつくばで過ごしています。

この間、先輩諸氏の指導を受け、よき同僚・友人・後輩・職員にも恵まれ、幸せな60年を過ごしてまいりました。今回の受章は多くの人たちのお蔭と心底から感謝しています。

私は卒後、インターンを経て、神経精神科教室に入りました。その後、1971年千葉大学脳神経外科と

平成6年9月 栃木県知事表彰
平成9年5月 栃木県医師会長表彰
平成10年10月 芳賀郡市教育委員長表彰
社会保険庁長官表彰

中田義隆 (昭36)

1977年筑波大学脳神経外科の新設・立ち上げに関わり、牧豊教授の推薦で1985年から病院長として筑波メディカルセンター病院の創設に参加しました。

その間、主任教授の松本胖教授、牧野博安教授、牧豊教授の薫陶を受け、筑波大学では東條静夫・岩崎洋治・小泉準三・小形岳三郎・成田光暢・長谷川鎮雄の各教授、県内では当時の三宅和夫県西総合病院長をはじめ諸先輩から有形無形の支援を受けました。なお、筑波大学では同級の大川治夫・白石博康の両先生が一緒でした。

(公財)筑波メディカルセンター病院の役割は茨城県南・県西地域の二次・三次の救急医療を担うことと地域の医療機関との連携でしたので、救命救急センターの併設や開放型病院及び地域医療支援病院の指定に到

りました。その後、茨城県地域がんセンター、訪問看護、健診センターを併設し、さらに県から県立の看護専門学校と死因不明の急死例を対象とした剖検センターの運営を受託しています。病院長を2001年4月に石川詔雄先生(昭47)に引き継ぎ、現在は上記財団の代表理事

瑞宝小綬章

叙勲受章の挨拶



平成二六年四月二九日に公示された春の叙勲において瑞宝小綬章を賜りました。五月十六日午前、厚生労働省にて大臣より綬章を賜り、午後には皇居豊明殿にて天皇陛下に拝謁申し上げ、身に余る光栄に感激いたしました。

私は、一九四〇年北埼玉に生まれ、上海で成長し、恐らく結核性の胸膜炎で死にそこないながらも、戦後の比較的早めの四六年一月に帰れた引揚者の一人です。熊谷高等学校を卒業し一年

とつくば市医師会長を務めています。この間、健診センターを立ち上げた小野幸雄先生(昭37)が長年にわたるよき相談相手です。これからしばらくは2025年に向けての国が進める地域の包括ケアシステムを实らせるべく微力を尽くすつもりでいます。

角田興一 (昭40)

浪人後千葉大学に入学、一九六五年(昭和四〇年)に卒業、一年間のインターンを経て医師となり、大学院(第二内科)に入りました。学部一年に父を亡くしましたが、その頃の大学改革、インターン制度廃止等の潮流のなかで、アルバイト収入と日本育英会の奨学金の貸与を生活の糧とし、結婚もしました。大学院三年時から叙勲を賜ったのは、皆様に、齊藤十六教授が辞されたこととなり、大学院籍はそのままで本間三郎教授の第一生理学教室に身を置かせていただき、埼玉県和光市の理研の生体高分子研究室(深田栄一先生)に通い、血液レオロジー、粘弾性などを勉強させていただきました。一九七〇年学位記をいただき

きました。大学院卒後の方向付けができないときに、宇佐美暢久先生のお誘いを受け、七一年九月から三年間大阪の住友病院(堂野前維摩郷院長)に勤務しました。七四年一〇月に千葉に戻り、稲垣義明助教授、香月秀雄教授のお口添えで千葉市健康増進センター所長となり五年間勤めました。七九年十月に千葉県救急医療センター準備室に入り、その後定年までの二五年間救急医療センターに勤務しました。また、八三年からは、国民健康保険審査委員

会委員として働かせていただいています。救急医療センター在職中には、非常勤の学外講師・学外臨床教授を拝命しましたが、諸学兄のような千葉大学での職歴・教職歴は私にはありません。でも、千葉大学の近くで、また、千葉県内で働かせていただいたところから叙勲を賜ったのは、皆様からいただいたご指導ご支援の賜と感謝申し上げます。この後の余命についても精進し、ご芳情に報いたいと存じます。



おののはな同窓会賞 受賞によせて

社会貢献賞

『待合室から医療を変えようプロジェクト』

稲毛サティクリニック

河内 文雄 (昭50)



私は昭和50年に千葉大学医学部を卒業したのち、大

学病院、国立療養所、公立病院、私立病院などで研鑽を積み、平成2年に現在の地に開業しました。以来20年以上にわたり、社会の片隅でこじんまりと暮らしてきましたが、思うところがあり、2013年に東京大学公共政策大学院の医療政策研究ユニットが社会人を対象とした勉強会、医療政策実践コミュニティ(HPAC)の2期生に応募しました。メンバーは論文審査を経て、最終的に4つのステークホルダー(政策立案者、医療提供者、患者支援者、メディア)ごとに10名ずつの40名となりました。当初私は、日々の臨床で困難を実感している救急患

に違いない、という仮説のもとプロジェクトはスタートしました。

2013年の秋にプロジェクトは始まりましたが、私はその時点ですぐに2014年3月24日の東大福武ホールを押さえました。周りのみんなからは無謀だとあきれられました。私には密かな勝算がありました。ちなみに、シンポジウムの開催予定の福武ホールは、かの安藤忠雄設計で、赤門を入つてすぐという立地条件も魅力でした。そしてその日に向けて準備が始まり、自分の人生で最も濃厚な時間が過ぎていきました。

シンポジウム当日、定員184名の福武ホールは22都府県から参加した233名の参加者で埋まりました。8名のシンポジストは、東大病院を設計した建築家、日本で最も救急車を受け入れる病院の救急医、病院図書館の第一人者、カフェの店主、現役の電通マン、東金病院長の栄養士、日経新聞の記者、医療IT企業の統括マネージャーといった多彩な顔ぶれで、まさに社会学と学問の渾みある福武ホールに多様性を呼び込む結果となりました。

ここで突然の個人情報の開示ですが、当院の直近のカルテ番号は108,000番で、平成23年11月24日には半日で264名の患者さんが受診しました。ウチのような小さな診療所がこうした数字を上げることができたのは、独自に編み出した渚理論のおかげです。すなわち私はすでに「待ちプロ」のパイロットスタディを行ない、それなりに満

社会貢献賞

『市民に正しい医療情報を提供し、自ら生活習慣病を予防する示唆を提供する』

NPO法人小象の会 代表
西船内科 院長



篠宮 正樹 (昭50)

足すべき結果を得ていたのです。これが先ほど、私には密かに勝算があったと述べた理由です。さてこれからの話です。今日までに積み重ねたノウハウを皆様に還元していくことが、これからの私の仕事であると考えています。皆さまのお役に立つことができれば幸いです。

この度はおののはな同窓会賞社会貢献賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。推薦して戴いた先生方、ご検討して戴いた先生方に深く感謝致します。私は第二内科に入室して熊谷朗先生、吉田尚先生、齋藤康先生のご指導を受けました。1994年に船橋済生病院長となり、2001年に西船内科を開業し、生活習慣病の患者さ

小象の会)を設立しました。そして講演会を主催し、出前講演を行い、キャンペーンを行い、会報誌(現在第17号を編集集中)を発行して参りました。その中で私は日本の子どもたちが、自分の生活はつまらない、時々死にたいと思う、カッとすという割合が諸外国に比べて高いことを知りました。すなわち、自尊心が低いのです。自尊心が低く、病気を予防し健康でいようとは思わないでしようし、また他人をも大切にできないと思えます。しかしながら私たちの身体は素晴らしいのできていて、生まれてきたことの不思議さを感じます。そこで小中学校に出向いてその場で体験できるような身体不思議さ、生まれてきたことの奇跡、人間が素晴らしい身体と心をもっていることを訴えてきま

はるかなる絆のボタン

小象明 篠宮正樹
山口まさよし 監修
監修 藤川大祐

第38回千葉県読書感想文コンクール
千葉県課題図書
●小学校・中学校・高等学校

した。すると子どもたちから「あなた達は素晴らしい身体と心をもって生まれてきたと言われた時、自分の身体を大切にしようと思えました。病気になるまいよに心掛けたいと思います。」という内容の感想文が何百通も届くようになりました。このような啓発内容を盛り込んで刊行した2冊の童話(小象の会理事で童話作家・小倉明氏と共著)がそれぞれ2011年度および2014年度の千葉県課題図書小学校の部に選定されました。今回の社会貢献賞受賞を機に、ますます市民が元気になるように活動を発展させていきたいと思えます。これまで一緒に活動してきた皆様、私どもを支えてきた多くの方々に感謝を申し上げ、私の受賞報告といたします。ありがとうございました。

最終講義

免疫記憶の形成と維持

分化制御学 徳久剛史 (昭48)



はじめに

ジェンナーが種痘法を発見してから200年以上が経過しています。この間、免疫学は、ワクチンの仕組みの解明に向けて、遺伝子操作などの生命科学分野における最先端の技術を取り入れて研究を進展させてきました。そして、ワクチンの原動力である免疫記憶B細胞の分化する場がリンパ節や脾臓に形成される「胚中心 (Germinal Center)」であることが明らかにされました。

私は、学部学生の時代に生体防御機構としての免疫現象に興味を持ち、大学院で免疫学を専攻しました。そして博士論文研究の中から、免疫記憶細胞の重要性に気づき、以来免疫記憶細胞

胞がどこで分化して、どのようにして長期間維持されているのかという疑問を解明するために30年以上にわたり研究を継続してきました。臨床医を志して本学に入学したので、初志とは異なる人生を送ることになりました。本最終講義では、免疫記憶細胞に関する研究内容に私の人生を重ねて紹介します。



写真1: 素晴らしいメンターからの指導を受けた大学院時代多田研究室のメンバー (昭和52年ごろ) 前列左端から奥村康先生、富岡玖夫先生、藤本重義先生、小島荘明先生、オバリー先生、多田富雄先生、後列左端が酒巻 (松沢) 建夫先生



写真2: 免疫記憶B細胞の研究を始めた米国留学時代学会参加で多田研究室のメンバーがサンフランシスコに集合 (昭和54年ごろ) 前列左端から小池隆夫先生ご夫妻、奥村先生、谷口夫人、河野陽一先生、後列左端が谷口克先生



写真4: 研究室の立ち上げに奔走した助手時代谷口研究室のメンバー (昭和61年) 前列左から、住田孝之先生、徳久剛史、伊藤俊広さん、宮副一郎先生、2列目、住田夫人、竹森利忠先生、木元博史先生、高橋和昭先生、幡野雅彦先生、副島利紀先生、3列目、菅野雅元先生、田村芳夫さん、坂本透先生、白澤卓司先生、沖津明先生、山本修一先生、桑原一郎先生、磯貝和秀さん、古関明彦先生

先生の主宰される免疫学教室では、サプレッサーT細胞による抗体産生抑制機序に関する研究が主流でした。初めの1年半は、谷口克先生からマンツーマンで実験の指導を受けました。谷口先生がオーストラリアの Walter and Eliza Hall Institute (WEHI) へ留学されると、時期を同じくして奥村康先生がスタンフォード大学から帰国され、私のメンターとして引き続き1年半の間、研究指導をしていただきました。この頃から抗体産生系におけるヘルパーT細胞の多様性に関する研究へと発展していき、学位論文の他にも多くの業績を挙げる事ができました

た。研究手法や考え方の異なる二人の素晴らしいメンターに大学院生として直接研究指導を受けたことは、この上ない幸運だったと思います。大学院3年終了時に、奥村先生のご推薦によりスタンフォード大学へ留学するチャンスを得ました。Joe and Len Herzenberg教授ご夫妻の指導を受け、多くの業績を挙げる事が出来ました。しかし、留学初期は英語力のなから研究討論には上手く加われませんでした。この経験から、日本の研究室でも英語による研究討論が日常であるべきだと



写真3: Len Herzenberg教授ご夫妻

と思いました。また、生涯の研究テーマとなった免疫記憶B細胞の分化に関する研究を始めました。当時の研究テーマは、成熟B細胞と免疫記憶B細胞における細胞表面型の違いを見出すことでした。私たちは、免疫記憶B細胞は細胞表面のIgG抗体を失うという結果を得ていました。しかし、他の研究室からはIgG陽性であるという結果

が報告されました。そこで、IgD陽性とIgD陰性の免疫記憶B細胞の違いを見出すため、抗体の親和性 (抗原結合力) を簡単に測定できるELISA法を開発しました。この方法で、抗体の親和性を測定したところ、IgG陽性の免疫記憶B細胞からは低親和性の抗体のみが、またIgD陰性からは高親和性の抗体が検出されました。このことから、免疫記憶B細胞には2種類あり、ワクチンに効果的なのはIgD陰性の免疫記憶B細胞であることを明らかにしました。千葉大では、多田先生が東大へ転出され、後任に谷口先生が教授に昇任すると、米国留学中の私に助手ポス



写真5: ケルン大学のRajewsky教授

トのオフアールがあり、留学を途中で切り上げて、谷口研究室の立ち上げを行いました。米国ではすでに2年半が経過しており、「留学生活が楽しくなったら帰国する」という私の持論に従いました。Heizenberg夫妻は、大変残念がりましたが、日本に帰国してからも、彼らとの共同研究などで引き続き多くの業績を挙げることが出来ました。また、谷口研究室のセットアップなどを体験できたことは、その後の自分の研究室の立ち上げに役立ちました。この頃には、大学院生の住田孝之先生らをメンターとして厳しく指導していました。

人生を決めたドイツ留学時代

米国から帰国後3年目になると、谷口研究室での論文業績も増えてきて、このままでは臨床に戻れなくなるといふ危惧が強くなりました。そこで、人生の進路を決めるために2年間

の猶予をもらい、ドイツのケルン大学に二度目の留学をしました。フンボルト財団の奨学金を獲得し、独力で免疫記憶細胞に関する研究を続けられるかどうかを試したのです。ケルン大学のRajewsky教授の研究室には、多田研究室時代の先輩である竹森利忠先生や谷口研究室の後輩である齋藤隆先生がポストクとして留学していました。このドイツ留学中に、免疫記憶細胞分化の研究には個体レベルでの研究方法が必須であると判断して、当時開発された胚工学技術の習得を目指してハイデルベルグ市にあったEuropean Molecular Biology Laboratory (EMBL)に内地留学をしました。そこで、トランスジェニックマウスの作製技術を修得するとともに、臨床医の道にもどるといふ迷いを捨てました。

ドイツから帰国後に、遺伝子操作マウスを用いた免疫記憶に関する研究を本格的に開始しました。この当時の谷口研究室には、竹森助教授の他に大学院生として留学直前の住田先生や幡野雅彦先生、山本修一先生などがいて、相変わらず活気にあふれていました。胚工学の機器を整備して、こ



写真6: 神戸大学時代の教室メンバー (昭和62年)

れからという時に、神戸大学医学部に教授として採用されました。昭和62年に着任し、新設の感染免疫学教室で幡野先生とともに研究室の立ち上げをゼロから始めました。研究面では、ドイツ留学時代に作製した $\alpha\beta$ T_H1細胞のトランスジェニックマウスを用いて、多くの業績を上げることができました。特に、胚中心B細胞で $\alpha\beta$ T_H1細胞が過剰発現するとアポトーシスに陥ることにより、胚中心が形成されないことを見出しました。臨床からの大学院生や東南アジアから

の留学生を積極的に受け入れて、英語による研究討論が当たり前の研究室に作り上げていきました。千葉大学医学部では平成元年に高次機能制御研究センターを立ち上げて、分子レベルでの医学研究を組織的に行なっていました。このセンターに胚工学技術を用いた医学研究を行う教室者が少ないこともあり、私が戻ることになりました。平成5年に着任して、始め



写真7: 千葉大学時代の教室メンバー (平成10年ごろ)

作マウスの飼育管理規制に適合する形に整備しました。そのころに東京医科歯科大の血液内科からBC16が $\alpha\beta$ T_H1細胞に関する共同研究の話を持ち込まれました。BC16は、ヒトの胚中心由来のリンフォーマの染色体転座部位(3q25)から単離された $\alpha\beta$ T_H1細胞で、胚中心B細胞において強い発現が認められます。BC16欠損マウスを作製したところ、胚中心形成が全く見られな

いことを見出しました。そこで、BC16欠損マウスに抗原刺激を行い、免疫記憶B細胞の分化を調べました。その結果、驚いたことに胚中心が形成されないのに免疫記憶B細胞による明らかな二次免疫応答が見られました。しかし、産生される $\alpha\beta$ T_H1細胞の抗原親和性は低いままでした。このことから、免疫記憶B細胞は胚中心がなくても分化できることや、胚中心は抗体の親和

性を高めるために必要な組織であることを明らかにしました。また、BC16欠損マウスの成熟T細胞においても免疫記憶T細胞への分化に異常が見られることを見出し、BC16が免疫記憶細胞分化のマスター遺伝子であることを明らかにしました。

代わりに
免疫記憶B細胞の分化機構を分子レベルで解明することにより、新規ワクチン療法を開発しようとした私の夢は、結局は達成されませんでした。しかし、その間に、素晴らしい人格を備えた多くの先生方から教えを受けてきました。そのような教えを通して私は、「研究は人格の現れである」とともに、研究を継続することの意義は「人格を高めるためである」と考えるようになりました。そして、ただひたすら一筋を追求することの大切さや、人格形成に向けて研究以外の様々な方面でも努力することの大切さを、若い研究者や臨床の先生方に伝えておきたいと思うようになりました。ここに、これまでご指導を受けた先生方ばかりでなく一緒に研究活動をした教室の先生方や大学院生の方たちに深く感謝申し上げます。

「個人的な体験」から

医師のキャリア形成を考える

総合医療教育研修センター 田邊 政裕 (昭49)



はじめに

いる。科目のまとめとして私の「個人的な体験」を例にこれらのコンピテンシーに共通する「医師のキャリア形成」について考察、講義した。

学生から医学教育者へと続くキャリア形成

学生時代

最終講義は3年次の「医師見習い体験学習」科目のまとめ授業として2014年2月21日(金)、IV限に附属病院第一講堂で行われた。千葉大学医学部では2008年4月からアウトカム基盤型教育が導入され、6年間の医学教育のアウトカムとして医学生は卒業時に何ができないとしないか(コンピテンシー)を具体的にかつ明確に示すようになった。その中に「自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることが出来る」(生涯学習能力)、「同僚、先輩に対する指導、助言ができる」(後輩の教育)という二つのコンピテンシーがある。この科目の学習目標は上記のコンピテンシーを達成するために設定されて

れた(そのような自覚はなかったが)。先輩、同僚、後輩の寮委員をロールモデルとしてマネジメントの要である対人関係技能等を自然に学んでいた。

研修医時代

卒業後、小児外科医を志して旧第二外科に入局した。旧第二外科は大正15年(1926年)に瀬尾貞信教授が創設した科で、当時、治療が困難であった食道癌の外科治療をテーマとし、それを「共に達成できる人材」を育成するために厳格な教育が行われていた。食道癌の治療成績を飛躍的に向上させた第2代中山恒明教授は、「人生は経験である」、

が共有していた。このように医局という実践共同体(Community of practice, CP)の中で経験から学ぶ(コト)Kolbの経験学習(Experiential learning)やLave & Wengerの社会構成主義的な学習理論(Situated learning)に合致している。旧第二外科に所属した3年間でその後の医師としての核となる部分を体得したように思う。

小児外科医

小児外科は旧第二外科出身者が大半を占めていたため、基本姿勢は共通であった。入局時、高橋英世助教授を中心に各学年に1から3名の医局員がいた。私は小児外科というCPに新参者として正式に入局が認められた(正統的周辺参加 Legitimate peripheral participation, LPP)。研修医からスタートして専門医として十全となっていくためには、LPPによりCPの全構成員に正式なメンバーとして認知される必要がある。多様な構成員をロールモデルとして学習し(モデリング)、多様な構成員からの多面的な指導を受け(コーチング)、サポートを最小限にして次第に指導される機会を減らし(スキヤプフォルデ

イング)、最終的に指導医(専門医)として自立する(フェーディング)過程を辿ることができる。私は小児外科に25年近く在籍し、上記の過程により小児外科医としての研鑽を積むことができた。

留学

34歳になった時に米国立タンフォード大学に留学する機会を頂いた。小児外科入局時から続けていた抗がん剤による抗腫瘍効果の研究を更に発展させることができた。研究は未解決な課題を明確にして、その解決法を考え、実行し、その結果を吟味してまとめ、全過程を振り返り、更に新たな課題解決に取り組む一連の行為である。これは Knowlesの提唱した自己主導型学習(Self-directed learning, SDL)に相当する。SDLは研究者ばかりでなく臨床医にとっても生涯学習に相当する必須の学習習慣である。研究はSDLの実践と習慣化に有用である。医学生全員が6ヶ月間程度研究に専念できるようなカリキュラムの導入も検討すべきである。

解き放たれることで人生を振り返り、次の人生を構想することができる。留学先でのグローバルな知見や交友も獲得することができる。

医学教育者

50歳で小児外科医から医学教育者へと専門を変更した。自己実現には経験、意欲、機会が必要である。それまでの小児外科における教育経験を踏まえて、1999年に附属病院の卒後・生涯医学臨床研修部で教育の機会を得ることができた。医学教育分野でのLPPであったが、先輩、同僚、後輩の方々との交流や事務職員の方々の協力により成果をあげることができた。15年間の集大成として昨年日本医学教育学会を玄鼻キャンパスで主催し、医学教育の質保証の実現に向けてアウトカム基盤型教育の普及、発展に貢献した。

Take-home message

私の「個人的な体験」からキャリア形成に役立つと考えたことを、以下の八つのメッセージにまとめた。

1. 授業、課外活動等を通して対人関係技能を磨く
2. Self-directed learning を身に付ける
3. begin, continue (千葉大学医学部の信条)を実践する
4. 振り返り (Experiential learning) により自己の改善・向上を図る
5. 実践共同体へ参加し専門職としての自己を確立する
6. グローバルな視点で考え、行動する
7. 35歳までに研究する
8. 人を育てる (Teaching is learning)

平成27年版名簿発行のお知らせ

- 名簿発行日:平成26年10月下旬
- 体 裁:変型A4判(約520頁)
- 名簿価格:3,000円

名簿作成委託先

このたびの名簿作成は、正式な同窓会事業として株式会社サラト(兵庫県姫路市)に委託しております。
株式会社サラトのホームページ <http://www.salat.co.jp>

名譽教授から

大学院の頃

永野 俊雄 (昭30)



千葉大学医学部を卒業し(1955)、インターンをせず、同大学院医学専攻科解剖学教室に入った。しかし鈴木重武教授(実験発生学)が白血病で急死し、組織学の森田秀一教授のもとで、電子顕微鏡による細胞・組織学を専攻するようになった。ここに黒住一昌講師(昭24)がいて、会話中に、当時最高の専門誌「Biophys. Biochem. Cytol.」(JBC)現在「J Cell Biol.」に論文が印刷されるのが、夢となった。

大学院を卒業して、その年(1959)にUniv. of Washington, SeattleのBennett教授の下で、ニワトリの精子形成の研究を続けた。この時の論文は、指導教官による厳しい指導の末、単著でAnat. Recordに投稿し、改訂の上、印刷さ

れた。

留学を終えるとき(1961)に、原稿を解剖学教室に託し帰国した。この原稿作成には、タイプ用紙一枚一枚、Rosen Runge先生の校閲を受けた。これは、英語論文を書く上で大変な基礎となった。帰国後、JBC編集部から数カ所改訂すれば印刷発表出来るという手紙が来た。

その結果、JBCに論文が発表され、その中に1頁フルの大きさで電顕写真が印刷された。これで留学前の夢の目標が達成された。留学2年間で、2編の単著論文が出来た(Univ. of Wash.の電顕による論文は、単著者が原則であり、口頭で指導を受けた先生の名前は、論文の謝辞に書くのが慣習であった。勿論、共同研究論文は当然ある。顧みるに、2014年、論文捏造問題が新聞、テレビを賑わしている。一部研究者の倫理観不足に危惧を感じるの、老人基礎医学者のばやきであろうか。

田畑陽一郎先生が千葉県医師会長に

落合 武徳 (昭41)



千葉大学医学部昭和46年卒業の田畑陽一郎先生が、平成16年6月15日の選挙で千葉県医師会長に選出されました。田畑先生は東京の隅田川高校から千葉大学医学部を卒業し、第二外科(現在の先端応用外科)へ入局されました。千葉大学第二外科では、中山恒明教授の時代から新入局の1年生に對して6年生が指導教官として外科のイロハから患者の診かた、手術方法などを教育するシステムが確立しており、田畑先生の学年は私たちの学年が指導教官でした。あれから半世紀近い時が経過しましたが、いまだに田畑先生の学年とは家族ぐるみで箱根などへの旅行やゴルフなど、親密なお付き合いが続いており、今回の会長選出による私達の喜びはひとしおです。

田畑先生は第二外科で外科医として研鑽を積んだ後、平成三年に独立して腎不全患者に血液透析を行う明生会東葉クリニックを東金市に開設されました。その後、平成五年に八日市場、平成七年に八街、平成八年に千葉市内の東寺山、平成十年に大網、平成十二年に富里と次々とクリニックを開業し、平成10年には千葉市内に訪問看護ステーションを開き、さらに平成二十年には大病院の近くの三橋病院を東葉クリニックの関連施設にするなど、その発展ぶりは目を見張るばかりです。

今春、三橋病院開設65年記念の祝賀会があり、その席で田畑先生が挨拶をされ、日本の医療に關しての考えについて話されました。その話の内容は素晴らしいもので、「明生会が発展したのは、田畑先生が医療について確固たる考えを持っているからだ」という思いを強く持ちました。今回、千葉県医師会長として日本の医療と医師のために活躍してほしいと考えて、会長選挙の応援をしました。

千葉県医師会長選挙に投票権を有しているのは代議員135名です。代議員は

千葉地区、習志野地区、船橋地区など千葉県内の26の地区から選出され、各地区は医師会の会員数に応じて代議員の人数が決まります。たとえば千葉地区の代議員数は21名、市川地区は9名、市原地区は6名などです。このような地区選出の代議員のほかに、国立病院枠として3名、県庁枠として2名、千葉大学枠として3名が代議員となっています。千葉大学の3名は救急集中治療医学の織田成人教授、公衆衛生学の羽田明教授、環境労働衛生学の諏訪園靖准教授で、皆さん学識経験者です。

千葉県医師会の135名の代議員のうち、千葉大学出身者は31名で、104名が千葉大学以外の出身者です。今回の選挙では11票差で田畑先生が会長に選出されました。田畑先生は日本の医療に關して確固としたお考えを持っておられますので、医師会長としてそのお考えを実現してほしいと思います。県医師会長の任期は2年と短く、田畑先生にはぜひもっと長く会長職を続けて頂きたいと思っておりますので、私達応援団は頑張りたくてはいけません。

会長に選出された後の反省会で、「千葉大病院の医師たちの中には医師会に入っていない人も多数いるので、その人達にぜひ医師会員になって頂いて、代議員数を増やしたい」という意見ができました。すでに述べたように医師会長選挙は各地区の代議員の投票によって行われますので、千葉大学からの代議員数を3名と決めないで、千葉大学地区からも他の地区と同じように医師会の会員数に基づいて代議員を出すように制度を変える事、千葉大学の医師の先生方には医師会会員になって医師会会長選挙に参加して頂きたいという事が反省会で話し合われました。

日本医師会は日本の医療制度をリードする重要な責務と権限を負っています。一方、言うまでもなく千葉大学の本来の使命は世界をリードする研究と臨床、教育にあります。しかし、大学はそれに埋没するだけでなく、医師会活動にも関与して日本の医療に貢献することも重要です。

ものはな同窓会は以上のような観点に立って、大学の医師の医師会への関与の橋渡しをして欲しいというのが反省会で出た要望です。ご検討をお願いいたします。



選択的DPP-4阻害剤/糖尿病用剤

ジャヌビア錠

12.5mg
25mg
50mg
100mg

【シタグリプチンリン酸塩水和物錠】

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元【資料請求先】
MSD 株式会社
〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
<http://www.msd.co.jp/>

2013年12月作成
JAN13AD417-1218

各地ののな会 だより

安房ののな会

平成26年5月28日(水)、安房ののな会が、館山市「波奈総本店」で開催されました。総会とは別に年に1回行うようになり、今年は3回(年)目となります。今回は千葉県救急医療センター心臓血管外科部長の武内重康先生(昭56)をお招きし、会長の青木謹先生(昭36)のご挨拶の後、「急性大動脈解離の診断と治療―診断と治療のDilemma」と題して御講演をいただきました。

武内先生のお話は、豊富なスライドに手術の動画も加わり分かりやすく、5つの症例の解説もしてくださり、真摯に臨床をされている様子が伝わってくる内容でした。何もしなければ48時間以内に約50%が死亡する病態で、高血圧症の人が8割を占め、様々な症状の御説明から、まず大動脈解離を疑えるかが大切であり、CT(特に造影CT)で確定検査が必要で、解離の状態により手術か保存的治療かが決まり、手術法とその進歩や問題点、多彩な合併

症を併発すること、手術の最高齢者は92歳など、興味深いエピソードも交えてお話くださり、充実した時間を過ごすことができました。

その後、原久彌先生(昭34)の乾杯の御発声で懇親会となり、色々な話で盛り上がり、本当に楽しく懐かしく美味しいひと時でありました。なお、武内重康先生は、安房ののな会会員の武内重樹先生(北里大・昭53)の御実弟、今回は御兄弟で写真に写っています。青木会長のお話では、千葉大学勝山寮時代にご兄弟の

御尊父にお世話になったとのこと。写真撮影後、相正人先生(島根医大・平9)も参加されました。

写真右から
前列：本多満(昭37)、原久彌(昭34)、武内重康(昭56)、青木謹(昭36)、関谷信平(昭38)
後列：渡辺啓治(昭61)、天野晋(平3)、武内重樹(北里大・昭53)、辻博勝(平2)、伊賀寧(聖マリ医大・平2)、水谷正彦(昭52)、林宗寛(昭60)
(渡辺啓治)



山梨ののな会

平成26年度山梨ののな会総会が6月5日、甲府市のホテル談露館にて開催されました。本年度は15名の先生方にご参加を頂き、また昨年引き続き今年も初参加の先生を迎える事が出来ました。

会は清水天会長のご挨拶に引き続き、平成25年秋に瑞宝双光章を叙勲された小林清房先生に記念品の贈呈とご挨拶を頂きました。

ご挨拶の中で今回の叙勲と5年前の厚労省表彰との文面の違いについて興味深いお話をいただきました。また山梨県の救急医療への貢献に対し総務大臣表彰を受けられた松田兼一先生に記念品の贈呈とご挨拶を頂きました。

続いて横山宏先生の乾杯、ご挨拶を頂き、和やかなうちに歓談を重ねました。途中ののな同窓会常任理事報告が花輪孝雄先生よりありました。持参された新のはな同窓会館の取扱要項を見ては、かつての酒飲み学生からは飲み会はできないのかと昔を懐かしむ話で盛り上がりました。また昨年入会、今回初参加の五十嵐夏彦先生の紹介とご挨拶、続いて出席者全員の近況報告が行われ、時間はあっという間に過ぎ次回の再会を約束し閉会となりました。

写真右から
前列：塚原重雄(昭36)、小林清房(昭27)、清水天(昭39)、松田兼一(平元)、横山宏(専25)、花輪孝雄(昭45)
中列：五十嵐夏彦(平9)、中沢肇(昭52)、山口正敏(昭39)、小林哲(平11・金沢大)、鶴田好孝(昭54)、古屋好美(昭53)
後列：大西洋(昭63)、中山



光由(平5)、細田和彦(昭58)
(鶴田好孝、細田和彦)

君津木更津ののな同窓会

平成26年6月24日木更津市の東京ベイプラザホテルで地区同窓会の年次総会が開催された。当地区は111名の会員を数えるが、今回は38名の出席をみた。まず会長の松清央先生(昭43)から挨拶があり、続いて三枝一雄先生(昭32)より千葉県のはな会の現

況報告があった。事業報告、会計報告、会員の動向報告(入会5名退会2名)、執行人事の承認がなされた。講演会には小児病態学の第11代教授になられた下条直樹先生においでいただき、『アレルギー疾患についての最近の話題』との御講演を頂いた。食物感作は小児科以外の診療科にも重要な関与をしていることに啓発された。最近の千葉大学の変遷や今後の計画などにも触れて頂いた。質問要望では、当地域小児医療の充実の為の要望があった。硬式庭球部の先輩からの無理な注文も、教授には暖かく受け止めて頂いた。懇、親会は、研修医や若い医師にもたくさん参加して頂き、君津中央病院名誉院長の唐木清一先生(昭28)の乾杯で和やかに行われた。最後は木更津の街に繰り出し夜更けまで飲み明かし交歓の場を持った。

写真右から
前列：鈴木紀彰(昭50)、青柳博(昭49)、田中弘一(昭42)、唐木清一(昭28)、下条直樹教授(昭54)、松清央(昭43)、三枝一雄(昭32)、福山悦男(昭36)、田中寿一(昭43)
二列目：鈴木秀子(昭54・名古屋市大)、李元浩(昭

君津木更津のなはな同窓会



53)、土屋俊一(昭51・金沢大)、須田純夫(昭52)、柴光年(昭和50)、富田美佳(平9)、久住友紀(平22)、細川郁(平26)、山口敏広(昭54・北里大)
三列目:吉野めぐみ(平25)、渡部良夫(昭63)、木村博昭(昭58・滋賀医大)、岡陽一(昭56)、水見寿治(昭55)、大曾根義輝(昭62)、古谷雄三(昭61)、竹内修(昭61・東海大)、佐久間昭利(平26・日大)

四列目:内藤潤(学生)、山本寛人(平26)、古閑啓二郎(昭54)、三枝奈芳紀(昭57・信州大)、加藤大介(昭62)、鮎沢溶一(平元・北里大)、清水弘則(平4)、柳澤真司(昭60)、正田純平(平26)
最後列:海寶大輔(平25)、平沢累(平26)、今枝太郎(平20・福井大)、安部大地(平26)、新村兼康(平4・金沢大)、山田博之(平9)、久保聡史(平5)、有馬孝恭(平8・山梨医大)、諏訪部

東京のなはな会

信一(平3) (岡陽一)

平成26年度東京のなはな会総会が6月28日(土)にお茶の水銀座アスターにて開催されました。昭和24年卒の大先輩から平成5年卒の会員まで31名が参加しました。済陽高穂会長の挨拶に始まり、議事・報告、特別講演と進み、その後懇親会が行われました。

議事・報告では落成し運用が始まった新のなはな同窓会館についても報告されました。

特別講演は昭和42年卒の筈貫宏先生に「心臓突然死研究から社会医学へ」の演題でご講演いただきました。

筈貫先生は東京女子医科大学教授、早稲田大学理工学術院教授を歴任され、昨年9月からは東京女子医科大学学長に就かれています。

研究生活の原点である心臓突然死研究から、科学技術人間と社会に最適化するための科学であるレギュラトリーサイエンスの研究に向かわれた経緯等、長年にわたる研究実績、成果に基づきお話しいただきました。

研究に対する確かな目標設定、研究に対する意欲等興味深く拝聴しました。

平成26年 東京のなはな会総会



筈貫宏(昭42)、長澤仁一(昭24)、小幡裕(昭28)、藤山嘉信(昭30)、岩倉弘毅(昭37)
中列:稲田晴生(昭52)、古山信明(昭43)、橋本英明(昭45)、竹森利忠(昭46)、鈴木豊(昭41)、櫻井幸弘(昭46)、吉田光宏(昭45)、矢端幸夫(昭46)、木下敏子(昭38)、遠藤文夫(昭52)
後列:井上賢治(平5)、村上康二(昭61)、小川富雄(昭48)、篠塚規(昭50)、中村真人(昭54)、浅野武秀(昭44)、菊池友允(昭47)、岡本和久(平2)、吉原俊雄(昭53)、角田隆文(昭57) (菊池友允)

神奈川のなはな会

平成26年7月5日(土)、横浜駅西口のホテルキャメロットジャパンにて、神奈川のなはな会総会および懇親会が開催されました。

三科孝夫(昭46)の司会で、森豊会長のご挨拶の後、物故者の穂坂隆義先生(昭26)、松本龍二先生(昭28)、志村公男先生(昭31)に出席者一同で黙祷を捧げました。次いで議事に入り、小野田昌一副会長より平成25年度庶務報告、同決算報告、平成26年度予算案が上程さ

れ、いずれも原案どおり承認されました。

総会後に学術講演の部に移り、三科の座長で、横浜労災病院院長の西川哲男理事(昭47)より「経口糖尿病治療の最近の動向」の演題でご講演を頂きました。

昨年が続いてのご講演です。無理なお願ひにも拘わらず、今年も実に分かり易く、丁寧な、流行りのDPP4阻害薬から最近のSGLT製剤まで、ご説明頂きました。経口薬といえはSU剤と育った多くの参加者は、時代の変遷をつと感じたと思われま。西川先生は患者紹介もご快諾くださるので大変心強いです。

引き続き特別講演となり、講師は千葉大学大学院医学研究細胞治療内科学教授の横手幸太郎先生(昭63)で、座長は同期の吉村清司先生が務められました。横手先生は千葉大学医学部を卒業後、第二内科(現細胞治療内科学)に入局され、以後スウェーデン国立ウプサラ大学に留学されました。帰国後、千葉大学助手、講師を経て平成21年5月細胞治療内科学教授に就任されました。平成23年4月より千葉大学医学部附属病院副院長を併任され、現在に至っていらっしゃい

前例:済陽高穂(昭45)、四家正一郎(昭26)、田中光(昭24)、伊藤晴夫(昭39)、

ます。
ご講演は「変わりつつある2型糖尿病治療…どう使い分けるべきか？」の演題です。同窓会でですから、様々の専門の集まりとなります。横手先生はユーモアたっぷりに最先端の内容を、ご自分の実際の診療内容を交えて、なるべく平易にご教授くださいました。詳細な内科的治療ばかりでなく、肥満に対する母校の外科的治療の歴史などもご紹介頂き、外科系の同窓生も懐かしく、楽しいひと時を過ごすことができました。細かいお心遣い、深く感謝申し上げます。

恒例の記念写真の撮影後は懇親会となり、森豊会長の開宴のご挨拶の後、柴田鐵郎先生(昭23)の乾杯のご発声で、和やかな宴が始まりました。森会長より平成26年度のほな祭実行委員に恒例の寄付金が贈呈され、横手先生にご挨拶をいただき、楽しい時間も小野田副会長の閉会の辞となり、来年の再開を約してお開きとなりました。

写真右から
前列…西川哲男(昭47)、三科孝夫(昭46)、柴田鐵郎(昭23)、小野田昌一(昭40)、横手幸太郎(講演者、昭63)、森豊(昭37)、広田和俊(昭



27、近藤悟(昭28)、高橋功(昭34)、矢野根多(昭34)
二列目…林佑紀(学生)、北野慎一郎(昭50)、山本勇田陽子(昭46)
三列目…佐々木淳一(昭56)、

和田源司(昭43)、小野寺美津雄(昭33)、矢野靖子(昭37)、藪部和子(昭38)、島田陽子(昭46)

白岩拓巳(学生)、曾我井大地(平26)、郷地英二(昭61)、加濃正明(昭30)、小柳朝明(昭42)、新倉春男(昭45)、平澤晃(昭60)、中郡聡夫(昭58)、石川理恵(事務局)

四列目…大塚正史(平8)、梅田開(学生)、野澤聡志(平2)、飯沼克博(昭55)、大崎逸朗(昭47)、増田益功(昭55)、有我隆光(昭55)、新井裕二(昭45)、吉村清司(昭63)

最後列…栗原和男(昭55)、越川尚男(昭55)、奥野厚志(平元)、浮田英生(昭63)、渡辺義郎(昭56)、高山篤也(昭56) (三科孝夫)

平成26年7月5日、図書館脇にできた新のほな同窓会館にて、平成26年度一杯会が開催された。一杯会の会員は、会則上「千葉中学校、千葉第一高等学校、千葉高等学校を卒業し、千葉医学専門学校、千葉医科大学、千葉大学医学部に在籍した、あるいは在籍中の医師および学生とする」とある。長年会長を務められた鈴木一郎先生が退任され、今年度から田邊政裕先生に

一杯会

引き継がれた。田邊新会長より開会の挨拶があり、その後総会が開催された。会則の一部変更、会計報告や今後の運営など討議された。その後懇親会に移ったが、参加者は卒業生18名、在学生25名が一堂に会した。特に年配の先生方からは、当時の医進課程から医学部への進級状況、インターン制の問題から授業ポイント、卒業式が未開催の件、一方では浪人中での「白山の花街」の話など硬軟入り混じりのスピーチで大変盛況であった。参加者一同集合写真を撮り、閉会とした。その後、2次会にも多数の方々が参加され、再度盛り上がった。

現在の県立千葉高等学校は医学部から徒歩直近の場所にある。ただし一杯会会員相互の触れ合いは乏しく、20年以上経てお互いが同じ高校であったことを知るものが多々ある状況である。のほな同窓会はそれ程ではないとしても、会員同士の「絆」が薄いことは会員諸氏から度々指摘されている。「人間到る処青山あり」と参加者の言にあったが、各地で活躍する同窓会諸氏への一層のバックアップを同窓会に期待したいところである。



写真右から
前列…浅野武秀、中村宏、鈴木弘祐、田邊政裕、奥田桂子、市川邦男、宍倉正胤、池窪彩子、鈴木一郎、横田薫、浅田一成
二列目…篠塚仁貴、鈴木崇浩、杉田克生、中野義澄、山本和夫、小川真、鈴木隆弘、大内麻倫、山城麻奈、大谷祐介、渡部主樹、南館智樹、中出麻美
後列…花岡英紀、諏訪園靖、永井敏男、並木隆雄、渡辺毅士、今林宏樹、高橋周平、古賀邦林、船津悠也、大澤健太、遠山翔大、清水大貴、結城駿 (杉田克生)

ク ラ ス 会

爾久会 (昭29)

年1回の同級会は、快晴の平成26年6月15日、飯田橋のホテルメトロポリタンエドモンドにおいて開催しました。16名の級友にご夫人3名が加わり、会が始ま

りました。昨年以來逝去された富岡清海、実川浩の両君のご冥福を祈り黙祷、ついで本日の最長老の長谷川君の挨拶となりました。中島君のご子息が京都大学物理で学士院賞を受賞されたという報告でお祝いが盛り上がりました。雑談と酒、料理、あとは寮歌で来年もやろうと締めくくりました。写真右から

前列：福島通夫、鈴木日出和、窪田叔子、中野夫人、中野練一、中島哲二、山森喬夫、東振栄
二列目：中山夫人、根本幸一、長谷川透、野口晃平、佐藤忠夫、中山宗春、中神恒男
後列：若菜夫人、和田房治、富岡正光、島崎淳
(島崎 淳)

五五会 (昭30)

クラス会は平成26年6月15日昼に日比谷の帝国ホテルで行われた。卒業生100名中出席は20名(同伴者4名)であった。卒業時には(1955)、当時ゴーゴ1踊りがはやり、それにちなんで故青木淳君が名付けた。年齢はすべて80才を過ぎていた。クラス会は来年で解散の予定である。

今までの写真を集めて、記念写真のアルバムが出来る予定である。大学に長くいたため、永野が幹事長をやっていたが、埼玉の伊藤敏夫君にその役を引き受けて頂いた。来年の会も6月中旬を予定している。平均寿命は過ぎて、いろいろな老人病を抱えているが、皆元気で会食を楽しんだ。昼なので会食はアルコ



ールなしであったが、有志は同場所です。ビールその他を飲みながら、談笑した。現会員数は48名である。だんだん減少するのは、摂理である。会員の近況報告が配られた。老人性腰痛等の持病は持っているが、現役を保つ人、昔からの患者さんに頼られている人、子孫、その他に譲った人も多かった。クラスの元氣ある、若々しい一名は、奥さんに先立たれたが、再婚した人もある。

また来年6月に、再会を約して、解散した。写真右から
前列：秋元夫人、南園義一、南園夫人、伊藤夫人、伊藤敏夫、永野俊雄、新井多喜男、滝口夫人、滝口光雄、村瀬靖
後列：野本和男、中野政雄、秋元駿一、指田和明、志村昭光、岩井忠志、後藤澄夫、清水良平、高橋康、浅見敦、伊谷昭幸、横田俊二、藤山嘉信、加濃正明
(永野俊雄)



ちよに会 (昭42)

今年度の「ちよに会(幹

事 福田武集、門馬公経、関隆郎、関三千代)は、栃木県真岡市で6月1日(日)に開催しました。東京より



一時間半、真岡線SL列車が走る田舎の町です。同窓の福田武隼が五年前まで市長をやっており、真岡市を会場としました。懇親会は例年の如く、各会員の近況や昔話で盛り上がり、約三時間の会食の後、市内の各所をまわり、解散となりました。

来年は沖繩（比嘉英麿君幹事）での開催となりました。多くの出席を楽しみにしております。

写真右側から

前列：比嘉英麿、守屋秀繁、田中弘一、忍頂寺紀彰、森田清、福田武隼、伊佐治尚文、門馬公経
後列：小柳朝明、片倉透、佐野元昭、更科廣實、高崎健、関隆郎、小林茂雄、能勢晴美、森田喜崇子、関三千代
(福田武隼)

獅子の会 (昭44)

平成26年の獅子の会は、7月19日(土)に茨城県つくば市のホテルオークラで開催されました。茨城県での開催は2回目です。つくば市在住の同級生が4名(渡辺孝太郎、中川邦夫、吉井田美子(旧姓藤原)、吉井與志彦)おりますので、今

回は開催担当として当日の懇親会、翌日は、プロの大会も行われる名門コースでプレーするゴルフ組と、約50年前につくば地区に移転した日本の代表的な科学研究施設の最新設備を見学するサイエンスツアー組、そして笠間陶芸・美術館組の3つを企画しました。今年には卒業45年目、多くの同級生が古希を迎えたことで、何か記念になることも考えましたが、結局は例年通りの催しとなりました。当日は雷雨・強風の子報が出て、つくば地区も時々雨模様になり、10年前にも同地区で開催された獅子の会の二の舞いになるのではと心配されましたが、幸い雨もたいしたことはありませんでした。東海道・山陽新幹線利用の内海武彦君、土川秀紀君夫妻が途中雨で運行見合わせに会い、やきもきされたようでしたが、夕方には参加者が全員集合してくれました。ただ残念なことに、参加予定であった遠藤晴久君と吉田操君夫妻が発熱でやむなく欠席されました。卒業45年経ても学生時代の面影は変わっておらず、受付も見聞違うことなく順調に済み、別室でまず参加者27名(ご夫人も含めて)の記念写真を撮りました。

懇親会では、始めにクラス会幹事の西島浩君から、物故者小澤毅君の黙祷が捧げられました。小澤君は卒業後渡米し、現地で長年臨床医として活躍されました。しかしその後日本に戻ってきたからの情報を知っている参加者がなかったことを、幹事の西島君も気にしていました(開催担当者として余命年齢が気になる世代では、仲間同士の情報交換をどうするかが今後の課題と感じた次第です)。その他に西島君から千葉大学医学部や大病院の近況等が報告されました。

今回の獅子の会参加者は北は茨城から南は沖繩までの地域からで、沖繩から出席の高良宏明君に乾杯の挨拶をしていただき、フルコースの食事が始まりました。食事も進み、出席者の近況報告がアイウエオ順に始まり、各自が現在の仕事や心境、家族、自分の体調、将来のこと等を語り、卒業45年の重さかじみでた話をしてくれました。どの参加者も何らかの形で地域医療に貢献し、前向きな人生観を持っていることに感慨を覚え、皆さん良い年を重ねている印象でした。懇親会場は4つの円テーブルで暖めるべくテーブルを歩き来して話し込んでいる場面も多く見られました。食事や近況報告も終わり、同じ会場で、二次会のカラオケになり、まず高良君が歌い、そして岡崎壯之君がエンターティナーとして学生時代そのままにその場を大いに盛り上げて、皆を楽しませてくれました。3時間半は瞬く間に過ぎて午後9時半に懇親会は解散しました。なお次回の開催地をどこにするか、参加者から希望を募りましたが、坂本建彦君が手を挙げてくれ、長野県での開催の話が出ました。長野出身の細井湧一君も賛成して、次回は長野開催に決まりました。



きでグループ見学しました。サイバードインでは何人か実際に装具を体につけ歩く体験もしました。どちらの組の参加者からも好評で担当者としても嬉しい限りでした。

卒業45年、高齢者社会のまっただ中に位置している私達は、まだまだ有益な人生を送れる年齢であると自負しており、今回の参加者も各自がマイペースで社会と向きあい、日々過ごしている様子でした。1年あるいは数年ぶりのクラスメイトとの会合は、新たな活力を得る機会となったようです。次回長野で、是非多くの獅子の会の皆様のご参加をお願いし、再会を楽しみにしています。

写真右から

前列：東山(旧姓高橋)都紀、吉井(旧姓藤原)田美子、小林(旧姓張)清美、西島浩、佐藤政教、細井湧一、高良宏明
二列目：吉井與志彦、東山(旧姓陳)義龍、伊東範行、窪田勝也、田沢洋一、河村弘庸、土川夫人、間山素行三列目：渡辺(孝)夫人、中川夫人、西村則之、坂本建彦、緒方孝平、内海武彦、土川秀紀
最後列：渡辺義郎、岡崎壯之、中川邦夫、佐久川輝章、渡辺孝太郎、
(吉井與志彦)

42-48クラス会

平成26年3月1日、東京都中央区八重洲の八重洲富士屋ホテルで開催しました。昭和42年度に入学したか、48年度に卒業した同窓生の集まりで40名が出席しました。会に先立ち8名の物故者に黙祷を捧げました。会の冒頭に司会者から、良いニュースとして徳久剛史君が次期の千葉大学学長に内定したことが紹介され、徳久君のスピーチがありました。学長としてこれからの千葉大学の進むべき道が熱く語られ、キャンパスに

はいつも重機の音が絶えない、次々と新しい建物が建つようであればならないと新学長としての抱負を述べられました。

今回は遠方からの出席者の便のために、会場は東京、開催日を土曜日としましたので、遠く博多や山形からの参加者もありました。還暦も過ぎ、第二の人生を歩みだした者あり、開業医は何時になっても自分の都合ではやめられないなど、話に花が咲いた会となりました。

写真右から

前列…片桐(旧姓熊田)博子、大内美南、内田宏子、伊藤よしみ、保坂(丸尾)亜莉沙、徳久剛史、岩田泰子、河野陽一、秋葉哲生、安野憲一、中村孝雄
二列目…坂庭操、小川富雄、小林健一、鈴木晴彦、菊地紀夫、森山紀之、遠藤信夫、矢加部茂、野口哲夫、高島常夫、守田政彦、木内信二、山本義一、竹中正治
三列目…千葉次郎、金井英夫、小林道生、南昌平、野村馨、白井厚治、早乙女勇、灘岡壽英、吉田明夫、田沢浩、横山淳一、長谷部正晴、八木橋美範

(坂庭 操)



平成二年卒業生同期会

去る2014年5月10日、千葉大学医学部平成二年卒の同窓会が行われました。うちの学年は比較的集まり好きで、ここ数年毎年のように同窓会が開かれていきます。昨年集まった際、同期の耳鼻科がほぼ毎年皆勤で参加していたことから「よほど暇なのだろう」と言われ、渋谷真理子、鈴木敏幸、仲野敦子(旧姓柳田)、根本俊光の耳鼻科4人で今年の幹事をやることに。同級生には都内で活躍している人も多く、集まりやすいというところで東京の帝国ホテルを会場に選び、二次会も同じフロアで予約できました。今回は同期の中里(旧姓青山)道子さんが、千葉大学・子どものこころの発達研究センター特任教授に就任されたことを受け、当日は皆でお祝いを兼ねての集まりとなりました。女性が主役のためか、女医さんの集まりが良く、20余年ぶりの懐かしい再会もありました。全部で30人以上が参加してくれて、昔話や近況報告に花が咲き、そこかしこで懐かしい笑顔があふれています。勢い余って中里夫妻(旦那も同期です)の

馴れ初めなど披露させてしまい、大変盛り上がった会になりました。

二次会はバーラウンジに会場を移して、夜景を楽しみながらややつとりと杯

を傾けました。飲み足りない有志で三次会まで続き、解散したのは日付が変わる頃でした。

今回は整形外科の中川君と杉山君が中心となって幹



事をやってくれるそうです。同期の皆さま、またお会いできるのを楽しみにしています。

写真右から

前列…浦島哲郎、渋谷真理子、渡辺桂子、本郷由紀子、中里道子、小林信義、中里毅、仲野敦子、渡辺美輪子、竹中英子
二列目…鈴木敏幸、根本俊光、小風暁、阿部功、村越直人、野澤聡志、鈴木啓悦、岡部真一郎、趙龍桓、石川文彦、杉山宏、神川康也、神戸敏行
三列目…清水栄司、藤井克則、老沼和弘、中川晃一、池田良一、斎藤功、岡本和久、辻博勝、大淵徹

(根本俊光)

開催予定の行事を

お知らせください
学会、研究会、
会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務局へお知らせ下さい。
本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、5月および9月です。

研修プログラム

婦人科・周産期母性科(産科婦人科)

千葉大学大学院医学研究院
生殖医学 准教授

長田 久夫 (昭56)

産科婦人科は、女性の生涯を対象に、内科管理から外科手術まで、広いエリアを活動の場とする診療科です。

千葉大学病院婦人科・周産期母性科では、この10年間生水真紀夫教授のもと、自由なディスカッションとエビデンスに基づいた標準化により、スタッフ全員のコンセンサスが得られた診療を行ってきました。その日常の積み重ねは着々と実を結び、現在では県内全域から、多数の重症例や難治例を紹介いただいています。さらに、周産期・腫瘍・生殖内分泌の3分野のいずれでも、当科独自の先駆的診療を展開中です。帝王切開の緊急度分類やコード、むらさきなどの救命救急システムの確立(周産期部門)、進行卵巣癌に対する多臓器広汎合併切除手術例の蓄積(腫瘍部門)、各種妊孕性温存手術の開発やロボット手術の導入(生殖内分泌部門)

は、全国的にも注目を浴びています。

当科では、このように診療レベル向上の努力は絶えず、間なく行われていますが、それに匹敵するほど力を注いでいるのが、若手医師の育成事業です。例えば、病院がAttending doctor制度を採用する以前から、教育を専門とする医師を雇用し、研修医指導や学生実習の充実を図ってきました。

研修プログラムについては、従来から産科婦人科に特化した初期研修プログラムが設定されていて、非常に自由度の高いプログラムとして定評があります。産科婦人科研修を早期から集中的に行うことも、産科婦人科以外で将来必要となる診療科を中心に研修することもできます。卒業3年目以降は、産婦人科専門医資格を取得し、その後各自がサブスペシャリティーの道に進むまでの過程を徹底的にサポートします。シニア

レジデント(後期研修医)の3年間は、バランスのとれた研修とするため、大病院を含めた、特色のある研修協力病院を原則1年ごとにローテーションします。産婦人科専門医取得後には、さらに周産期(母体・胎児)専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医、産科婦人科内視鏡学会技術認定医、臨床遺伝専門医、日本臨床細胞学会細胞診断専門医など数多くのサブスペシャリティー資格が取得可能です。

全国的な傾向として、産科婦人科では女性医師の入局者数が男性医師のそれを上回っています。当科では、女性医師が、出産や育児など多様なライフステージに応じて切れ目なく働ける環境を提供します。とくに、産休育休後の職場復帰がスムーズに進むように、勤務体制については段階的に拘束度が高まるような工夫をしています。

現在、日本産科婦人科学会主導で、若手医師のリクルートや育成のための企画が行われていますが、当科では学会の先を行く様々な試みを既に実行してきました。例を挙げると、1)千葉県周産期診療施設見学ツアーセミナー・夏休み期間に県内の主要な周産期セン

ターを1泊2日で巡回し、各施設で周産期医療の現状を正確に把握させるとともに、宿泊地では問題点解決に向けての最新情報を提供、2)新生児蘇生法(NCPR)二次(B)コース講習会・日本周産期・新生児医学会公認の新生児蘇生法

講習を学生・研修医を対象を絞って開催、3)産科救命救急講習(ALSOPロバイダーコース)米国家家庭医学会公認の、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展維持するための教育プログラムで心肺蘇生講習会(ACLS)の産

科版に相当する講習会を開催、などを実施しています。この他にも、当科の研修プログラムを紹介するプロモーションビデオの作成や、他大学在学者や他病院の研修プログラム履修者を意識した、リクルート専用のホームページの開設を手がけ

てきました。私たちのモットーは、明るく元気で自由な雰囲気はどこにも負けません。このような雰囲気の中、女性の健康のため、次世代の誕生のために働く仲間が増えていくことを切に望んでいます。



医学部附属病院新外来診療棟



2階・3階 診察室



1階 総合案内

地方独立行政法人 東金九十九里地域医療センター

東千葉メディカルセンター

理事長・センター長・千葉大学名誉教授

平澤博之(昭41)

東千葉メディカルセンター (Eastern Chiba Medical Center: E C M C) は東金市、九十九里町が設立団体である地方独立行政法人である。東金九十九里地域医療センターが運営する病院で平成26年4月にオープンしました。このE C M Cの基本的なコンセプトは、「救急医療、急性期医療に軸足を置いた、地域中核病院」というものであります。それゆえ最新の設備を備えた救命救急センターも併設してあります。

さて、周知のごとく千葉県は医師不足に悩んでおり、E C M Cのような新設病院は従来の方法では優秀な医師を招聘出来ないだろうということが当初から危惧されました。そこで当時の齋藤康学長などのご助言もあり、独法側と千葉大学が協定を結び「千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センター」をE C M Cに併設し、そこを介して千葉大学医学部から優秀なスタッフを派遣して頂く

ことにしました。この構想は独法側が教官の給与や必要経費相当額を医学部に寄付し、医学部はその費用を使って「総合医科学講座」を新設し、同講座の特任教授、特任准教授、特任講師として、各診療領域の教官を全国公募して選出し、称号を付与した後E C M Cに派遣します。そしてその特任教官はE C M Cの中では、各診療科の部長、副部长等として、医学部学生や研修医に対する臨床教育を行いながら診療するというシステムです。したがって、E C M Cの医師は千葉大学の教官とE C M Cの診療スタッフという二枚看板を背負っていることとなります。

このことは写真手前に映っています。当センターの看板によく表れています。これらことからE C M Cは実質的には千葉大学第二附属病院とも捉えることが出来ます。平成26年4月の時点で、石原武内科部長(昭62)、朝比奈正人神経内科部長(滋賀医大・昭61)、笠原靖

紀呼吸器内科部長(昭62)、佐野剛一循環器内科部長(釜沢大・平2)、中川宏治外科部長(昭58)、青木保親整形外科部長(平5)、沖山幸一脳神経外科部長(昭55)と7名の特任教授が着任されています。その他の医師も全て千葉大学医学部附属病院の各診療科からの派遣です。E C M Cは平成26年4月に部分オープンしたが、足かけ3年でフルオープンしますので、事業計画にある22診療科、約60名の医師が揃うのは平成28年4月ということになり、その時点では救命救急センター内のICU (Intensive care unit) 10床、HCU (high care unit) 10床を含め病床数314床となります。平成26年度は14診療科、医師30名体制でスタートし、病床もICU 10床、HCU 10床を含め146床です。

E C M CはICUやCCUをはじめ放射線科なども大学病院に負けないような最新の医療機器を揃えています。また臨床教育はわれわれの重要な責務であると認識し、かなり力を入れており、314床の病院には不釣り合いともいえるほどの200名以上を収容可能な講堂、臨床教育センター1、講義室を備えており、

さらには各病棟には学生や研修医が自由に使える研修室を配置し、研修のための快適な当直室も完備しました。講堂では現時点でも各診療科やメディカル部門による講演会やセミナーが連日活発に行われており、これを聴くだけでもかなり勉強になります。医局は約30部屋の部長室(教授室)を配置したのをはじめ、全ての医師一人ひとりの机をパーティションで完全に分離し、作業に専念できるよ

うに配慮しました。また特筆すべきは千葉大学附属図書館亥鼻分館が所蔵する全ての電子ジャーナルをE C M C内の各医師のコンピュータでダウンロード出来るようにしたこと。これは各種の文献を容易くE C M C内で入手出来ることは、最新の医学知識や医療技術を維持するには不可欠だと考えたからです。

そのようなわけでE C M Cは従来の関連病院とはかなり趣を異にします。また



このような形で、病院全体で医学部附属病院と協定を結び、臨床教育センターを介して医師を派遣して貰い臨床教育を行いながら診療をするというシステムは、実は国立大学としては全国でも初めての試みです。E C M Cは千葉大学医学部附属病院から車で約30分の場所に位置しています。E C M Cでは重篤な疾患は勿論のこと、いわゆるコモン・

デザイナーズも多種多経験できます。要件を整え、各種の研修病院としての資格を獲得するのは来年度以降ということになりますが、当面は千葉大学の協力型研修病院としてその役をきっちり果たしたいと思っております。医学部学生や初期研修医の先生方は是非当E C M Cでの研修を検討して頂きたいと願っております。

日本赤十字社

深谷赤十字病院

院長・千葉大学医学部臨床教授

伊藤博(昭56)

深谷市って何処？

レジンビなどです。説明しなければならぬのが深谷市が何県の何処にあるかです。埼玉県北部、群馬県寄りにありますが県外の一般の人には、天気予報で出てくる熊谷の隣の町などと説明することになります。深谷と言えば昔からネギが

有名ですが、最近では昨年全国ゆるキャラ大会第4位となった深谷市のマスコット「ふっかつちゃん」の露出が多くなっているようです。もう一つ忘れてならないのは明治の偉人渋沢栄一誕生の地であることです。彼は生涯に銀行はじめ500あまりの会社を設立し明治、大正の産業、経済を支えましたが、彼の偉大なのは実業家として営利のみに走るのではなく「論語と算盤」を著し、「道徳経済合一」を唱え、社会活動として日本赤十字社、聖路加病院などの設立にも関わっています。



深谷市マスコット「ふっかつちゃん」



病院の概要

深谷赤十字病院は、昭和25年（1950年）の開院以来、埼玉県北部地区の基幹病院として発展して参りました。現在506床の病床と23の診療科を有しそれぞれに専門性の高い医療を提供するとともに、3次救急救命センターを併設し秩父を含む埼玉北部の広い3次救急医療圏を担当しています。また地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、県北部2次医療圏での地域完結型の医療を目指しています。

高齢化に伴い高血圧、糖尿病、脳血管障害として癌など複数の病気を併発する患者さんが増加する中で大学病院やセンター病院とは異なり総合的に対応できる地域急性期病院の強みを活かして、地域住民の方々に信頼されかつ人に優しい医療を提供して行きたいと存じております。

臨床研修への取り組み

平成16年の新臨床研修制度発足以来、単独型（基幹型）および千葉大学、群馬大学との協力型病院として当初は両大学からの協力型研修医のみでありましたが平成18年度から独自の研修医の採用が始まり、ありがたいことにここ3年間（平成24・26年度）は定員7名がフルマツチしております。千葉大学からはなかなか応募が無かったのですが平成25年度に小針亮司先生が初期研修医として現在研修中です（表参照）。私は当院の初期研修医に、医師になつて最初の2年間に習得すべき最も重要なことは、多くの知識、技術よりも、患者さんとのこころへ頻りに足を運ぶことや、医師同士のもちろん多職種のスタッフの人たちとコミュニケーションをとりチーム医療を実践できるなど臨床医としての態度・習慣を身につけることと話しております。医学的知識・技術は専門の道へ進む

深谷赤十字病院初期研修医採用実績

年度	出身大学	人数
平成26年	弘前大(2) 秋田大 東北大(2) 新潟大 信州大	7名+協力型1名
25年	札幌医大 東北大(3) 新潟大 千葉大 山口大	7名
24年	岩手医大(3) 群馬大(2) 筑波大 東海大	7名
23年	弘前大 東京女子医大 慈恵医大 三重大 産業医大	5名
22年	慶応大 聖マリアンナ医大 高知大	3名
21年	群馬大(2) 新潟大 金沢大 長崎大 琉球大	5名+協力型2名
20年	新潟大 高知大 大分大 東邦大 産業医大	5名+協力型1名
19年	東京女子医大 新潟大 山梨大 徳島大	4名+協力型2名
18年	群馬大(2)	2名+協力型1名
17年	(群馬大)	協力型1名
16年	(千葉大2) (群馬大)	協力型3名

に従い習得することが可能ですが、これらの態度・習慣は逆に疎かになることもしばしばあり、それ故、初期研修の時期にしっかりと身につける必要があると考えております。

千葉より遠く離れた地域基幹病院ですが僻地ではなく、と言ってももちろん都会ではない日本の標準的地方で地域医療を含め初期研修する意義は大きいと思います。興味のある方は是非一度見学に来て下さい。

千葉大学からの派遣、出身医師
 外科：伊藤博（昭56、院長）、尾本秀之（平元・熊本大）、

研修医だより

後期研修に臨んで

千葉大学医学部付属病院整形外科

脇田 浩正（平24）



私は平成24年3月に千葉大学を卒業しました。同年4月より千葉大学研修プログラムのもとで1年間君津中央病院、1年間千葉大学医学部附属病院で初期研修を行い、平成26年度4月より、引き続き千葉大学医学部附属病院整形外科にて後期研修を行っております。

当科には現在50人以上の整形外科医が大学に勤務しており、部位に応じて手、肩、頸、腰、スポーツ（主に膝、足）とグループに分かれて診療を行っております。後期研修医は月、水、

石川文彦（平2）、新田宙（平3・山梨医大）、藤田昌久（平4・弘前大）、釜田茂幸（平10・福井医大）、山田千寿（平12）、宇野秀彦（平16）、杉浦謙典（平21・群馬大）、精神科：馬場 章（昭56）、泌尿器科：石引雄二（昭61・鳥取大）、形成外科：金沢雄一郎（平11・新潟大）、島田奈都子（平16）、歯科：口腔外科：山野由紀男（平15・東京歯大）、戸枝百合子（平24・東北歯大）

金の手術日にはそれらの手術にも入らせていただき、その患者さんの病棟管理を主に行っております。その他にも当直業務があり、その際に救急部、救急隊から外傷等で問い合わせがあります。

初期研修1年目の君津中央病院で外傷治療に魅力を感じ、整形外科医になることを志しました。しかし、研修2年間で内科の勉強をさせていただきましたが、整形外科医としての専門的知識はありませんでした。今年度の4月から整形外科医として当直業務を行うのに自信はありませんでしたし、不安が強くありました。しかし、当科は誰でも相談しやすい環境であり、いつでも連絡がとりやすく、

日々のコミュニケーションをとっても大事にしている科であると実感しております。そのことにより、共に相談しあったり、助け合ったり、高め合ったりすることを可能にしている環境なのだと思います。勉強会等でお会いする外病院で勤務している先生方からも同様の印象をうけました。

また、個性豊かな先輩方、看護師さん、療法士さん達と病院内だけではなく飲み会、スポーツ等にお誘いいただき機会も多いです。そのことにより、病院内でも話しやすく、困った際には連絡がとりやすいです。

同期も11人と多く、千葉大卒は4人であり他は他大卒です。さまざまな経歴のメンバーと仲良く高めあうことができていると自負しております。

日々のコミュニケーションをとっても大事にしている科であると実感しております。そのことにより、共に相談しあったり、助け合ったり、高め合ったりすることを可能にしている環境なのだと思います。勉強会等でお会いする外病院で勤務している先生方からも同様の印象をうけました。

当科に巡り会えたことを幸せに感じ、今まで受けてきた多大な恩に関して一整形外科医として少しでも報いることができるように、日々精進していこうと思っております。

課外活動団体だより

スキー部

主将 医学部3年 岡安 慶太

千葉大学医学部スキー部は1959年に創設され、今年で55年目を迎える大変歴史のある部活です。部員が少ない時期もあったそうですが、医学部、薬学部、看護学部の医療系だけでなく工学部からも新入生を迎え現在は37名の部員が活動しております。陸上トレーニングとして毎週火曜日青葉の森公園でストラックラインやインラインスケートを練習し、冬になれば月山プロスキースクールの小原コーイチの元で合宿を開催させていただき、雪上トレーニングに励んでおります。毎週の部活動のあとはごはん会や飲み会などもあり、非常に楽しく和気あいあいとした雰囲気での活動です。

なかなか雪の降らない県である千葉県でスキーをやっている私達ですが、小原コーイチの下、ほとんどすべての部員が最低20日間は滑り、もっと滑りたい人は約40日間基礎から大会を見据えたポールセットまで、充実した雪上トレーニングを

することができるといふ非常に恵まれた状況にあります。このことは大会に成果として現れており、前年度の関東中部国公立十大学医学部対抗スキー大会においては、スキーを全く初心者から始めた平成25年卒丹羽佐輔先生(当時6年生)は

回転競技6位入賞、東医体においては同様にスキーを大学から始めた現在6年(当時5年)内田瞬が東医体で特別シード獲得、と雪国の選手に負けない滑りをしております。初心者から始めた選手がここまで成長している状況で、近年増えたきた基礎スキー経験のある部員が成長していけば、団体として良い結果を残せるのでは、と期待は膨らみ、また、それに向けて質の良いトレーニングをしていきたい所存でございます。

千葉大学医学部スキー部では毎年夏と冬にOB・OG会、2月にはOB・OG戦を開催させて頂いております。OB・OG会ではたくさんの先生方がお越しください、スキーのことだけではなく、さまざまなお話を聞かせさせていただきます。OB・OG戦では、先生方と現役部員が同じコースを滑り、タイムを競います。この日のために練習をしてからお越しくださいる先生もいらつしやいますし、年に

一度のスキーをお楽しみになる先生もいらつしやいます。最近ではお越しくださいる先生たちも増えてきております。さらに多くのOB・OGの先生方にお越しいただき、楽しんで滑ることができまうように部員一同、全力で準備させていただきます。たく思っております。スキー部を運営できるのもOB・OGの方々のご支援あつてのもです。この場をお借りしまして御礼申し上げます。



水泳部

主将 医学部4年 浅田 一成

まず初めに、このめはな同窓会報にて私たち水泳部の紹介をさせていただく機会をいただきましたこと感謝させていただきます。この場を借りて、水泳部とはどんな部活なのか、そして水泳という競技の素晴らしさを伝えられたらと思えます。

また、練習以外にもイベントの楽しいことが水泳部の魅力としてあげられます。特に4月には、水泳部の全精力をかけた新入生を歓迎するためのイベントを開き、毎年30人以上の新入生が入部いたします。このような楽しさもあり、最初は水泳が嫌いでも水泳部を好きになってくれることによつて、最終的に水泳部を引つ張っていくほどのスイ

私たち水泳部は、火、木、土曜日の週三回水泳の練習に励んでおります。10ヶ月までは新習志野にあり、夏の間は西千葉キャンパスにありますプールを使わせていただいております。この恵ま

れた環境を生かしまして、毎年8月に行われる東日本医科学学生総合体育大会においては毎年数多くの入賞者を輩出しております。

マリーとなる学生も少なくありません。そして、このように恵まれた練習ができるのも、大会に出場できるのも、新入生を大規模なイベントで勧誘できるのも、毎年部費を寄金してくださっているOB、OGの先生方のおかげに他なりません。この場をお借りいたしました、改めて感謝の意を述べさせていただきます。本当にありがとうございます。そんなOB、OGの先生

方が、私たち現役部員の練習や行事によく顔を出してくださるのも、水泳部ならではの良さだと思います。先生方がいつまでも顔を出したくなるような部活にしたいと思う気持ちも、水泳部を楽しい部活にする原動力の一つになっているのかもしれない。最後に、水泳という競技について僣越ながら述べさせていただきます。水泳とは一見、レースで泳ぐのはリレーを除いて一



人であることから、個人競技として思われがちです。もちろん、自分が速くなるのには一番大事なのは自分自身の努力であることは間違いないありません。ただ、普段の練習に対するその努力は、仲間とともにつらい練習を乗り越えるからこそ生まれるものだと考えます。また、レース中苦しいときには、仲間と泳いできたことを思い出すことで力が出せます。そして、仲間がよい成績を残せたとき、まるで自分のことのように喜ぶことがで

獅鷹会

代表

獅鷹会は、平成23年に設立されたばかりの、比較的新しい文科系サークルです。元千葉医科大学学長であった三輪徳寛外科学初代教授が処世訓として愛した言葉である「獅胆鷹目行以女手」から、胆力と眼力を兼ね備えた立派な研究者を目指そう、という願いが込められて名付けられました。

このサークルは、既に研究を行っている学生間の情報交換、研究に興味を持っている学生の研究活動への勧誘、他大学と研究交流するときの窓口としての機能、

きます。このような点から、水泳とは「みんなで泳ぎ、みんなで速くなり、みんなが喜ぶ」団体競技であると考えます。

最後まで読んでくださった皆様、ありがとうございます。皆様も、水泳という団体競技でかけがえのない仲間を手に入れてはいかがでしょうか。私たちもこの水泳部で手に入れたかけがえのない仲間とともに、これからも水泳部を築き上げていきたいと思います。

医学部3年 谷口 絢

などを目的として設立されました。大きな活動としては、夏に実施される「関東四大学研究医養成コンソーシアム（夏のリトリート合宿）」への参加があり、この他にも、抄読会、OBの先生による講演会、冬に実施される「ちばBasic&Clinical Research Conference」の予演会などを行っています。

昨年度末からは、新しい試みとして、ラボツアー企画を開始致しました。これは、研究に興味は有るけれどもその現場を知らない、

他の研究室の様子を知りたい、などという興味がある学生に対して、現場の雰囲気を感じてもらい、研究意欲を高め、さらには研究室選びの参考にしてみようという目的で開催しており、過去には呼吸器内科、アレルギー・膠原病内科、血液内科で実施しました。今後は基礎系研究室での実施も考えています。

近年、研究医不足が叫ばれていますが、その心配を吹き飛ばしてしまふ勢いで、今年も多くの新入生が獅鷹会の活動に興味を抱いてくれました。この事に嬉しく思う反面、各々が別の研究室に所属しているという事柄から、抄読会や研究発表



第4回夏のリトリート合宿参加メンバー（2013年8月実施）

会等の開催の難しさ等、様々な課題も抱えております。堅苦しい事ばかりやっつけてもつまらないので、皆が楽しめる様な活動を模索しているところです。

研究と一口に言っても、様々な分野があり、研究室探しをしている学生が一人で全てを把握する事は難しいです。また、各々が抱えている医師像と実際のキャリアパスとの違いを早い段階で知る必要も有ります。自分がやりたい事を見出し、行きたい場所を見つけ、そしてそれをまた後輩達に伝える。その様な形で、活動を充実させて行きたいと考えております。そのためには、学生だけの活

亥鼻医療政策研究会

代表 医学部4年 世古口 真吾

動には限界があり、様々な場面でご活躍中の先生方にご助言を賜る事ができればと願っております。我々の活動に際し、何かと迷惑をおかけする事もあるかと存じますが、どうか温かい

亥鼻医療政策研究会は、2007年度入学の先輩方が設立した比較的新しい部活で、先輩方の卒業後私が2代目の代表を務めさせて頂いております。活動は、2ヶ月に1回ほど千葉大OBの厚生労働省の医系技官の先生方や顧問の伊豫雅臣先生をお招きし、医療政策等についての勉強会を行うのがメインとなります。一方向の講義形式ではなく、毎回テーマを決め、それに対して担当の学生が調べて発表をし、それを基に先生方と学生を交えてディスカッションを行うという形式で行っております。医療政策研究会、という名称ではありませんが、勉強会のテーマは純粋に政策的なもののみ限定しているわけではありません。「医師不足」「医療費増加」「TTP」といった政治的色彩が強いも

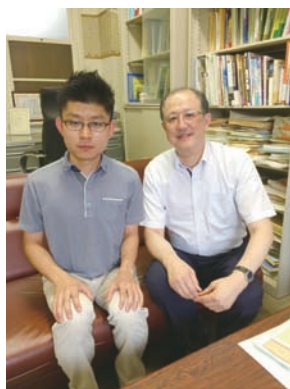
目で見守って頂けると幸いです。獅鷹会の活動はHPでもご紹介中です。
http://www.m.chiba-u.jp/shiyokai/

のから、「災害時医療」など臨床の最前線の話題、さらには「医療倫理」「医事法」など医師・医学と関わりが深い隣接学問まで、学生の興味・関心に応じて幅広く扱っております。また、外部のゲストの方をお招きしてお話を伺うこともあります。

これまでに、介護分野の専門家や、医療分野のIT関係者の方等にお越しいただきました。さらに、時には「効果的なプレゼンテーションの仕方」「面接の受け方・心構え」「問題解決の際の思考法」など、医師に限らず社会人として必要なスキルを先生方に指導して頂くこともあります。

所属する学生は15人ほどと小規模ではありますが、コンバクトな分、参加する学生全員で双方向のコミュニケーションを取る事ができ、密度の高い勉強会が出来るのが利点だと考えております。学士入学の学生、他学部を卒業して再入学した学生、他学部（法政経学部など）の学生も所属しており、それぞれの得意分野を活かした発表をしたり、医師や医学生とは異なる価値観・視点に触れたりすることが出来るのも魅力です。活動の日時・場所も固定せず柔軟に設定しているため、他の部活やサークル、勉強会との両立も可能となっております。少しでも興味がありましたら、是非お声掛け頂きたいと思っております。

末筆ながら、千葉大学OB・OGの方々、先生方、また学外のゲストの方には当部活の活動を温かく見守って頂き、大変感謝しております。今後ともご指導・ご教授のほど、宜しくお願ひ致します。



会 員 か ら

医学部ヨット部

徳久剛史教授学長就任祝賀会

山 崎 一 樹 (平15)

平成26年5月11日(日)の夕方、千葉大学亥鼻キャンパスの新同窓会館にて、ヨット部OBである徳久剛史先生の学長就任パーティを開催しました。現役の医学部ヨット部員37人、OB36人が集まり、真新しく、白色眩しい多目的ホールにて盛大に行われました。ヨット部部长の認知行動生理解学教授清水栄司先生(平2)より開会の辞、ヨット部OB会長の脳神経外科学前教授山浦晶先生(昭40)より会長挨拶、吉井耳鼻咽喉科医院院長吉井功先生(昭34)より乾杯の御発声をいただきました。大先輩方からは徳久先生へのお祝いの言葉だけでなく、レースや練習の思い出、ヨット部を通じて得た教訓を伺うことができました。我々OBにとつては稲毛や江ノ島でヨットを走らせていた現役部員時代を思い出させてくれる、懐かしく世代を越えて共感を憶えるものでした。

我が千葉大学の新たなリーダーとなった徳久先生より、リーダーの姿勢とそのあり方についてのお言葉を賜りました。学生には学生の、部活には部活の、医師には医師の解決すべき課題や乗り越えるべき壁があります。組織のメンバーや役割・位置づけが変われば、リーダーはその組織に適したマネージメントを行う必要があります。我々が青春を捧げたヨットは、優しさと荒々しさをともに包含した海を舞台として行われる競技です。この競技には、楽しさ・美しさと危うさ・厳しさが背中合わせに存在します。様々な価値観を持つ多数の人間で構成される部活動という組織が、チームや個人の安全に配慮しながら一丸となって勝利を目指していくには、ルールと強いリーダーシップが不可欠です。「ヨット部のキャプテンに任命された者は、貴重な経験をしていると思いなさい。それが将来の糧になつていくだろう」というお言葉は現役部員だけでなく、我々OBにも深く刻み

込まれたものでした。本会に併せて、医学部ヨット部の新入生歓迎会も行われました。新たに迎えた6人の新入部員たちも、数ヶ月後には真っ黒に日焼けして海にいることでしょう。大先輩から新入生まで一堂に会する貴重な機会でありながら、笑いの絶えないパーティーでは、あつという間に時間は過ぎていきます。部活動のつながりは一生続くことに感謝しながら、夜は更けていきました。

出席者(OB)：吉井功(昭34)、山浦晶(昭40)、徳久剛史(昭48)、斎藤威(監督)、清水栄司(平2)、佐藤嘉治(平10)、浅野由美(平12)、深谷佳孝(平13)、山田浩司(平13)、外池百合恵(平14)、河口貴昭(平15)、齋藤江里子(平15)、山崎一樹(平15)、横山真隆(平15)、黒澤暁子(平17)、松村洋輔(平17)、牧聡(平18)、山本陽平(平18)、鈴木謙介(平19)、長澤耕男(平19)、古屋淳史(平20)、柴橋慶多(平20)、加藤賢(平21)、新井隆之(平22)、森田香織(平22)、茂田啓介(平22)、澤田尚人(平23)、松林理葉(平23)、田仲美波(平24)、鋪野歩(平24)、米田慧(平25)、小関久美子(平25)、加藤央隼(平26)、石井公祥(平26)、山本寛人(平26)、山内陽平(平26)



ゴルフ再開、その訳は...

赤 倉 功 一 郎 ・ 早 苗 (昭59)

私共夫婦は千葉大学医学部の同級生です。医学部ゴルフ部第一期生にあたる功一郎が、最近娘につられる形でゴルフを再開しました。子供が生まれた頃から遠ざかっていたゴルフですが、その長女が千葉大学医学部の後輩となり、更に医学部ゴルフ部に入学した為です。懐をあてにされてか、練習やコースと一緒に父娘で行く機会ができ、スコアはともかく楽しんでいきます。二代続きのゴルフ部員ということで、現役ゴルフ部員のみなさんとのパイプも太くなったようです。夫婦双方の父親も、80歳を越えましたが、下手の横好きでゴルフをたしなんだので、家族性の要因もあるでしょうか。



実は早苗の実父、鈴木正巳はのりな同窓会員です。昭和28年卒で習志野市大久保にあって人生希望寮の寮員でした。隣の東邦大学薬学部の学生と結婚し、旧病院(現医学部棟)の3階産婦人科病棟で早苗が出生したと聞きました。当時の生物活性研究所で学位をとった後、故郷の静岡県で整形外科の開業医として過ごし、引退しました(余談ながら彼は作家の井上靖と同じく沼中・四高の出身だそうです)。

このように3世代4人の同窓生がいるので、静岡に家族で帰省した際など、新旧の千葉大の話題に花が咲きます。年齢と共に昔話が懐かしく、のりな山に郷愁をおぼえるこの頃です。

写真右から
赤倉功一郎(昭59)、赤倉奈穂実(医学部3年)、鈴木正巳(昭28)、赤倉早苗(昭59)

同窓会員著書の紹介

緑川 隆(昭38) 著

写真集

「南房総―大地と海と陽光のドラマ―」

千葉日報社 定価三、八〇〇円(税抜)

伊藤 晴夫(昭39)



最近、偶然に緑川隆先生の写真集を手取る機会があり、その素晴らしさに驚嘆致しました。先生の云われるように、南房総は三方が海に囲まれ、約190キロにおよぶ海岸は、独特の美しい景観を呈しています。これが国定公園に指定されていることは初めて知りました。

千葉県は全国でも6位の人口を擁する大県で、関東平野の南部と房総半島からなります。千葉県が大きく分けて二つの顔を持つ県であることは理解していましたが、南方面のことに関しては、長いあいだ千葉県に

住んで居たにも拘らず良く知りませんでした。

しかし、先生の写真集を拝見して、千葉にもこのような素晴らしい風景があるのかと驚くと共に嬉しく思いました。世界の名勝地にも勝るとも劣らぬ景観です。身近なものでは忘れていたことが多いのですが、これもその一例と思います。千葉県も国内外に大いに宣伝して欲しいものです。成田空港からは勿論、館山自動車道や圏央道などもあり首都圏からのアプローチも良くなつたので、日本人は勿論のこと外国人にも沢山来て貰えればと考えます。東京オリンピックも良いチャンスだと思います。

先生は南房総における海岸の地形・地質が独特かつ多彩であり、それが海岸風景の骨格をなしていることに気付かれました。その地学的背景を知るために地

学を独学で学び、更には県立中央博物館で高橋直樹先生に教えを賜ったそうです。これは、かのレオナルド・ダ・ヴィンチが理想の絵画の為にその実態を知ることが必要と考えて人体解剖を熱心に研究したことに

伊藤晴夫(昭39) 著

改訂新版 ボケない食べ方

緑風出版 定価 一、六〇〇円(税別)

伊藤 晴夫(昭39)



高齢化の進行により先進国のみならず発展途上国においても認知症が急速に増えています。これによる医療・介護および経済的負担も急増してゆくでしょう。私が食事と病気の関連について研究を始めたのは約30年前でした。その時の課題は、頻度の高い尿路結石の再発を抑える食事は何かでした。驚いたことに、その結果は現在、生活習慣病予防のための食事と近いことでした。尿路結石症も生活習慣病の一種であることが分かったわけでは

通じるような気が致します。緑川先生は写真を本格的にはじめて15年になるようですが、この写真集は永年にもわたるご努力の賜物と思えます。今後の更なる活躍を期待したいと思います。

そして最近、認知症も生活習慣病の一種であることが認められつつあります。私にとってこれは二度目の驚きであるとともに、希望を与えてくれるものでもありました。生活習慣病が深く関わる脳血管性認知症については、当然のことながら食事が大きく影響します。それだけではなく、食事など無関係だと思われていたアルツハイマー病についても、栄養や運動などのライフスタイルが重要な役割を果たしていることが分かってきました。

食品の中には、その成分が脳に与える影響が学問的にも明らかになってきました。ただし、一つの成分を大量投与する臨床試験はほとんど失敗しています。副

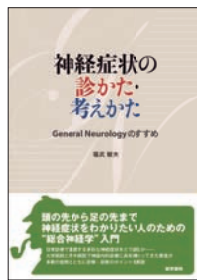
作用さえ見られています。したがって、もとの食品を摂る方がよいのです。さらには、個々の食品でなく全般として理想的に近い食事、例えば日本食や地中海食といったものが勧められます。高齢化社会、さらには来るべき超高齢化社会においては個人の健康とともに医

福武敏夫(昭56) 著

神経症状の診かた・考えかた - General Neurology のすすめ -

医学書院 定価 五、四〇〇円(税込)

杉田 克生(昭54)



本書は、福武敏夫先生が神経内科の日常でよく遭遇する症候や病態について、

「General Neurology」の観点から「自身の診療経験をわかりやすく記述された『生まれながらの名著』である。煩雑さ故、医学生のみならず一般医師にも敬遠されがちな神経症候学、神経診察学の魅力を、あたたか

も推理小説を読むごとく展開しているのはひとえに著者の学識経験の豊かさ

療費の問題も大変です。現在、介護保険対象の要介護者の半数異常が何らかの認知症症状を持っており、認知症はこのシステムの最大の課題と言われます。このように、介護にとって認知症はもつとも大きな課題の一つです。

因している。その能力があるからこそ達成できた本書は、単著ゆえの一貫した記述により、誰もが最後まで読み通してしまいうまに例のない最強の学習書である。

本書の序には「いわゆる高度医療の側面には触れていない」とし、「街中の交通渋滞に対処するもの」と記されているが、内容は神経診察のエッセンスが散りばめられており、入門者のみならず臨床神経学を希求するすべての医師に勧めたい高著でもある。

第I編は、「日常で遭遇する患者」と題し、頭痛、めまい、しびれ、パーキンソン

ン病とその周辺、物忘れ・デメンチア(認知症)、精神症状・高次機能障害、「奇妙」な症状などについて、多くの症例を示しながら解説してある。特に「Memo」のコラムは著者からの貴重な「伝授」であり、すべてが「覚えておくべき臨床パター」と思われる。第II編は「緊急処置が必要な患者」として、けいれん、意識障害、急性球麻痺、急性四肢麻痺、脳梗塞が解説されている。一般診療上有益な症例が神経学的所見をまじえて紹介されており、この編が将来独立して総合診療医向けに著されることを期待したい。

一方、第III編「神経診察のポイントと画像診断のピットフォール」では、小児神経診療に携わる者として、まず初めに熟読した章である。「診察手技に取捨選択」「脳神経はこれだけ診ればよい」などはあらためて診察意義を確認できる。古代ローマの名医Galenusは、「医師は視聴嗅味触覚の五感をよく活かして英知をはたらかしてこそよい診療ができる」と説いた。本書では、病歴聴取の基本構造は、「聞く」と「訊く」の2つからなることが力説されているが、「聴取」の重要性を再確

認した次第である。さらに画像診断の項目では、「読みの不足」、「短絡的判断」など自らの数多い「ピットフォール」に照らしながら画像診断を学ぶことができる。福武先生の師匠である平山恵造教授が、「見る」ことでも、「視、看、観、診」などの違いを最終講義で解説さ

福武敏夫(昭56) 著

脊髄臨床神経学ノート
— 脊髄から脳へ —

三輪書店 定価 八、六四〇円(税込)
(著者あとがきより)



本書は神経内科の臨床に携わって以来、原著論文や総説、書籍の分担執筆として書いてきた脊髄脊椎関連の拙文を基に、多少の削除・追加を行って、項目別に並べたものです。新しく書き下ろした項もありますが、三輪書店発行の「脊椎脊髄ジャーナル」に寄稿した2回のシリーズ「脊椎脊髄疾患の神経症候学」(2006、2007年)と「脊椎脊髄疾患との鑑別を要する神

れたことが思い出される。福武先生が書き残すことの重要性から著された本書は、神経症状にとどまらず患者の「診かた・考えかた」に関する我々医師への伝授書である。そのクリニカルパールを伝授できる有難さを同窓諸氏と分かち合えることを確信する。

学べる、類を見ない書籍になったのではないかという自負もあります。脊椎脊髄疾患とその他の疾患の鑑別が問題となるような臨床場面に遭遇した後で、本書の関連項目に眼を通していただければ、何か役立つヒントが得られるのではないかと期待しています。細い脊髄には不思議で大きな内容が詰め込まれており、臨床神経学にとってまだまだチャレンジングな対象です。実際、脊髄はヒトでは脳の2%の体積しかないといわれ、イヌで23%、ニワトリで51%を占めるの

経疾患(2008、2009年)が中核となつています。その都度、関心のあること、あるいは依頼されたことについて書いたものを整理しただけです。やや統一感に欠けるくらいがありますが、繰り返して出てくる内容もあります。そのため、本格的教科書やマニュアル、ガイドライン本のようなレファレンスとしての意義は高くないかも知れません。その反面、神経症候の捉え方については具体的症例を多く紹介しながら解説しているの、特に脊椎脊髄と脳との関連について臨床的に有用なポイントとピットフォールについて

に対して、脳に比べ相対的に絶対的に小さい構造です。しかし、脊髄は運動系、感覚系、自律神経系の通り道であり、大脳の運動野、感覚野さらに視床下部や辺縁系とも結びついていて、高次脳機能や精神機能、脳神経機能以外の主要神経機能を担っています。最近では特に外科領域において、脳(または筋骨格系)と脊椎脊髄の専門家が分離されてきていますが、当然ながら脊髄は脳(または筋骨格系)と切り離しては考えられない構造です。有名な言葉「ヒトの解剖はサル」の解剖のためのものである(カール・マルクス・経済学批判、

1857)をもじつて言うのと、「脳の症候学は脊髄の症候学のための一つの鍵である」なのです。神経の医療に携わる者は専門の如何に関わらず、脳・脊髄・末梢神経・筋・皮膚という軸に常に関心を持つべきであり、本書が多少でもそのための貢献ができれば幸いです。



千葉大学医学部 サッカ一部

第57回東日本医科学生総合体育大会(夏期)

2014年8月9日(土)

筑波 2-2 千葉(PK 8-9)

住所変更・勤務先変更された方は同窓会事務局までご連絡ください。

同窓会事務局

TEL : 043-202-3750

FAX : 043-202-3753

E-mail : info@inohna.jp

みのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二〇回(二〇一五年度)みのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。
医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学みのはな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰

① 社会貢献賞 (三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。(二件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。

② 功労賞

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一四年十二月一日から二〇一五年一月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇一五年五月中旬までに各申請者に通知すると共に、みのはな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、みのはな同窓会事務局
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

2014年 第39回
みのはな美術展

— 千葉大学医学部OBによる美術展 —

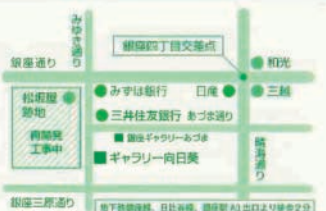
9月29日(月)~10月5日(日)

AM11:00~PM6:00 最終日4時

初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。例年通り下記の会場で、第39回展を開催いたします。ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申し上げます。

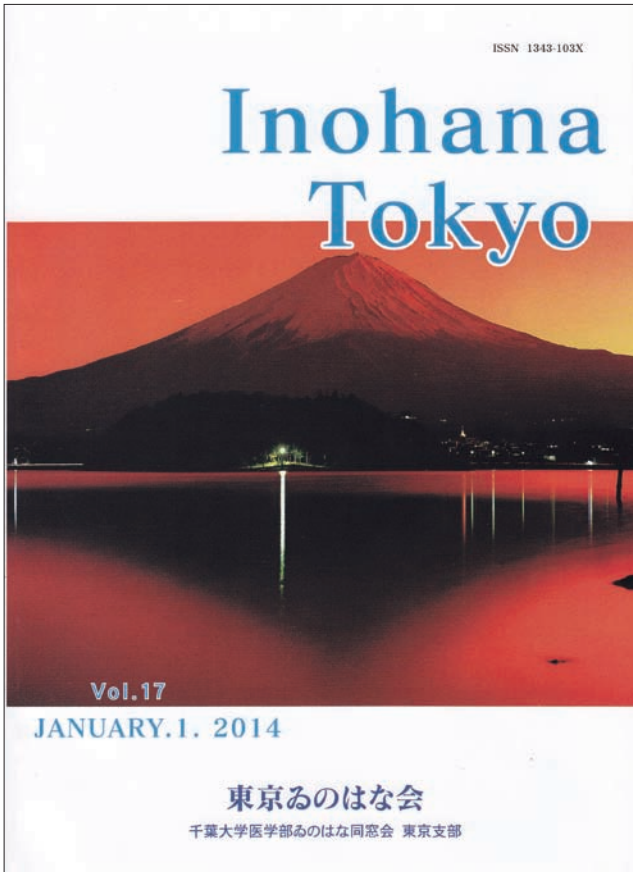
銀座 ギャラリー向日葵

〒104-0061 東京都中央区銀座5-9-13
銀座南正ビル2F
TEL 会場 03-3572-0830
TEL 事務所 03-3573-1680



東京のいなはな会

平成26年1月1日 第17号

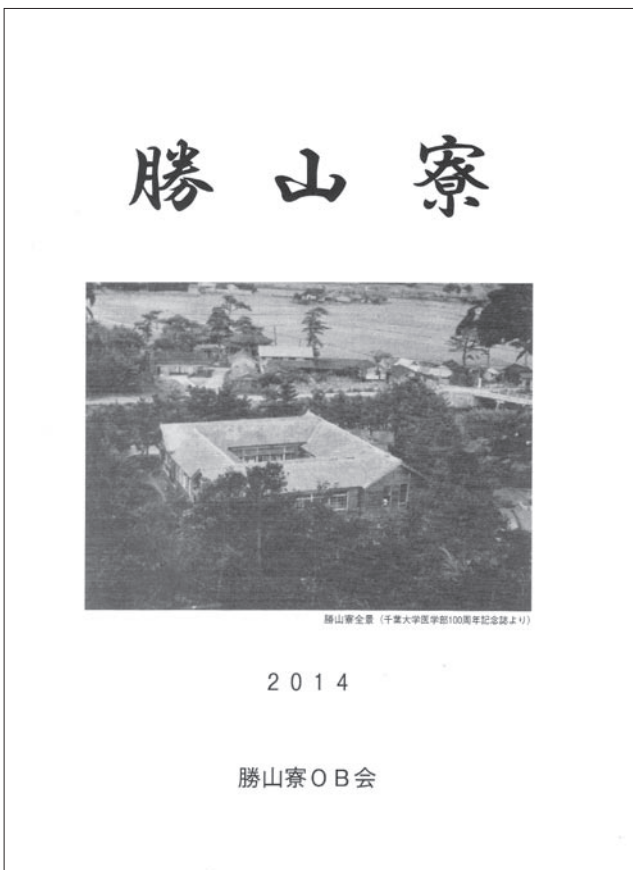


目次
Inohana Tokyo vol.17

	Page
巻頭言 年頭のご挨拶	清陽 高穂 2
TPPと日本の医療	廣瀬 輝夫 5
日本医師会便り	道永 麻里 7
旧制医科大学の最後の世代のなつかしい写真	渡部 士郎 9
眠る・生きる	小沢 昭司 10
◇最終章◇(短歌五首)	住吉 孝男 12
会津戊辰戦争の女性たち	藤山 嘉信 13
子宮頸部のヒトパピロームウイルス(HPV)感染	岩倉 弘毅 17
編集後記	岩倉 弘毅 21
勤務医通信 vol.20	
東京のいなはな会勤務医部会飛躍の年に	吉原 俊雄 25
前立腺がんPSAスクリーニングの普及に向けて	赤倉功一郎 26
帝京大学での10年	三浦 文彦 28
東京女子医科大学整形外科脊椎グループ	村田 泰章 32
東京のいなはな会 平成25年度総会 34
予算決算 35
平成26年度 のいなはな会 行事予定 36
東京のいなはな会 役割分担 36
東京のいなはな会会則 37

勝山寮

平成26年



勝山寮

勝山寮

目次

勝山寮OB会	田邊 政祐(昭49卒)
勝山寮 ～千葉大学医学部100周年記念誌より～	牧野 博安(昭25卒) 5
青春の舞台	吉井 功(昭34卒) 8
我が青春の勝山寮	青木 謙(昭36卒) 13
勝山寮の思い出	加藤 昌義(昭36卒) 19
勝山寮の思い出	佐藤 裕俊(昭38卒) 20
勝山寮の思い出	諸田 美夫(昭55卒) 21
勝山寮で過ごした日々	滝澤 義和(昭61卒) 22
リアル・ビーチボーイズ	高瀬 一喜(平4卒) 23
あとがき	田邊 政祐(昭49卒) 24
寮委員名簿	
物故委員 27
委員名簿 28

平成26年度 第1回常任理事会議事要旨抜粋

日 時：平成26年4月17日 (木) 18時より
場 所：東京ステーション
コンファレンス

出席者：伊藤晴夫(会長) 大井利夫(副会長) 濟陽高穂(副会長) 鈴木信夫(副会長) 秋葉哲生(会計監事) 田中 光(会計監事) 税所宏光(参与) 青木 謹 岩倉弘毅 岡本和久 小野田昌一 黒木春郎 三枝一雄 坂田早苗 穴倉正胤 白澤 浩 鈴木 守 田邊政裕 角田隆文 幡野雅彦 花輪孝雄 吉川広和 (敬称略)

白澤浩理事より資料に基づきなのはな同窓会館の使用規定について説明された。使用規定は「千葉大学のものはな同窓会館取扱要項」と「同窓会館の利用につ

て」の2つに分けて詳細を定める事とした。会議室1は一般的には貸し出さない事とし、ホール等を基本的に使用できるのは平日となっているが、土・日も公的なものには使用可能とした。利用申し込み期間については、同窓会員・教職員は12か月前から申し込みできるよう優先順位を高くした。会館内での飲酒は禁止とされているが、公式行事等の場合は認めるとした事などの説明があった。「会館内での学生の飲酒は原則禁止としたほうが良い。学生がホールで自由に集えるようにできないか。ホールに名前をつけたほうが分かりやすい。」等の意見があり、今後さらに大学内でも検討することとした。

議 題

1. 報告事項

(1)なのはな同窓会館について
白澤浩理事より資料に基づきなのはな同窓会館の使用規定について説明された。使用規定は「千葉大学のものはな同窓会館取扱要項」と「同窓会館の利用につ

ことが承認された。
(2)役員選出について
今期は役員の変更は特にないことが報告された。

(3)平成25年度決算
①決算報告
幡野雅彦理事より資料に基づき以下の通り説明があった。収入については、ほぼ予算どおりであるが、1)一般寄付金として千葉医学会から同窓会館設立支援金として100万円の寄附があった。2)会報の広告掲載収入があり予算を上回った。支出については、1)会議費・委員会費は評議員会の開催を見送ったため余剰。2)給与についてはフルタイムの雇用を見送ったため、余剰。3)備品費はウインドウズXPのサポート終了のためパソコン3台とプリンターを買換えたため予算額を超過した。4)諸費は事務局の引越したため予算を超過した。5)会報・会誌については会報の頁数増加のため予算額を超過した。6)猪之鼻奨学会への支出は、公益法人化支援のため増額している。7)IT広報関連経費は動画の制作が多かったために予算を超過した。8)千葉医学会の寄附100万円を合わせて、410万円を積立金として計上した。9)同窓会館設立

のために3400万円ほど同窓会基金が減少したこと等が説明され、決算報告が了承された。

②会計監査
田中光監事、秋葉哲生監事より監査の結果、会計処理が適正である旨、報告された。

(4)平成26年度事業計画
白澤理事より新なのはな同窓会館の建設は終わったが、二期工事の計画について説明があった。二期工事は、メモリアルホールとして本館につながる回廊の壁に共立病院から現在に至るまでの歴史を展示する建物を予定しており、同窓会としての記念展示のスペースも必要等の意見もあり、計画の検討を開始することが承認された。

(5)平成26年度予算
幡野理事より資料に基づき、平成26年度の予算について以下の通り説明があり承認された。収入については、寄付金の項目、会報関連の広告掲載分を増額している。支出については、消耗品費はコピー代金を負担するようになるために増額、会報印刷費は頁数増加のため増額、猪之鼻奨学会への寄附は法人化の支援が終了したため以前の額に戻し、白衣式の助成は定員の増

加・DVD制作費のために増額、新なのはな同窓会館建設費未執行分として30万円を計上した。

(6)なのはな同窓会賞選考結果
田邊政裕理事より、資料に基づき、昨年度から設けられた社会貢献賞の候補者についての説明があった。各学年の評議員に候補者の推薦を依頼、推荐された候補者について検討した結果、河内文雄氏(昭50卒)、篠宮正樹氏(昭50卒)が選考委員会より候補者として推薦された旨の報告があり、承認された。

(7)総会議題等について
白澤理事より、平成26年度なのはな同窓会総会は、大学の担当で平成26年6月14日に総会を千葉大学附属図書館亥鼻分館ライブラ

イホール、懇親会をなのはな同窓会館ホールにて開催することが報告され承認された。

(8)活性化委員会
秋葉哲生理事より資料に基づき説明があった。同窓会の活性化のため、若手に同窓会での役割を担ってもらい、同窓会活動に参加し、具体的な活動を通して同窓意識を持たせる。本学の卒業生が大学に残り、学業活動や地域医療活動を通じて

お互いに高めあう関係を作る。このような目的のため、5名の委員が会長の諮問委員として承認され「活性化

諮問委員会」とすることが承認された。

平成26年度 なのはな同窓会総会議事要旨

日 時：平成26年6月14日 (土) 15時より
場 所：千葉大学附属図書館亥鼻分館ライブラ

出席者：29名
委任状：542名

伊藤晴夫会長の辞、白澤浩理事の司会により開会となり、まず物故者に黙祷を捧げた。伊藤会長の挨拶の後、同会長が議長に選出され議事が進められた。

議 事

(1)名誉会員の推薦について
白澤浩理事より、内規に基づき推荐された2名について説明があり、承認された。

(2)年次活動について(報告事項)
①庶務部報告
鈴木信夫副会長より、平成25年度の各会議開催や各支部との交流等について報告された。

②事業部報告
同副会長より、同窓会賞

の授与、同窓会報の発行等について報告された。

(3)平成25年度決算について
①決算報告
幡野雅彦理事より、決算内容について以下のとおり説明があった。収入については、会費収入事業収入とも若干予算を上回り、寄附については千葉医学会よりなのはな同窓会館設立支援のために100万円の寄附があり、会報の広告収入が増額となった、同窓会基金より取り崩した建設資金の現時点での支払い額は3760万円であること。支出については、会議費・委員会費は評議員会開催を見送り、給与についてはフルタイムの雇用を見送ったため、余剰となった。備品費はウインドウズXPのサポート終了のため事務局のPCやプリンターを購入したため、諸費は事務室の引越し費用のため、会報・会誌については会報の頁数増加のため、IT広報関連事業費はHPの動画掲載が多かった

の授与、同窓会報の発行等について報告された。

ため、それぞれ予算額を上回った。猪之鼻奨学会支出金は法人化支援のために増額していたものを元の額に戻した。同窓会基金への積立金は、千葉医学会からの寄附と余剰分を合わせて410万円を計上した。以上につき報告があり、承認された。

② 監査報告
田中光監事および秋葉哲生監事より、監査報告があり、決算案が承認された。

(4) 平成26年度事業計画について
鈴木信夫副会長より、会報発行、各地域のるのほなへの支援、各地域のるのほな会と本部間との交流、研究教育助成、IT広報関連事業について説明があった。同窓会組織の充実については、同窓サポートプロジェクトとして一昨年から卒業50年を迎えた諸先輩に贈呈している記念メダルについての説明があり、以上について承認された。

(5) 平成26年度予算案について
幡野理事より、各予算項目について以下のとおり説明があった。収入については、ほぼ前年と同じであるが、会報関連の広告収入を増額し、同窓会基金より同窓会館建設費の未払い分3000万円の移管を計上し

た。支出については、消耗品費をコピー代の負担を見込み増額し、猪之鼻奨学会への支出は、法人化前の金額に戻し、その他はほぼ前年と同様であることが説明され、承認された。

(6) 役員選出について
白澤理事より会則に則り、役員任期は2年のため、任期中で変更はないが、空席となった事業部の静岡担当の後任が決定していないことが説明された。

(7) 新るのほな同窓会館について
田邊理事より、新るのほな同窓会館について、平成26年2月9日に催された完成祝賀会等の説明があり、4月以降、学生はじめ医学部だけでなく、看護学部、薬学部等にも利用されていること、建設資金の募金状況、建設工事費用の総額について説明があった。るのほな同窓会館二期工事メモリアルウォールの計画案については、壁面に各教室の歴史を掲示し、学生等の集える場所を提供する建物であることが説明された。

(8) その他
白澤理事より以下についての説明があった。

(1) 同窓会館使用規定については、施設管理運営責任者が医学部研究院長であるこ

と、および申し込み期間等について。

(2) 記念講堂の改修・補強工事、および記念講堂の愛称、ロゴ選定について。

(3) 第9回亥鼻キャンパス留學生交流会、および同窓会からの支援について。

伊藤晴夫会長の辞により、閉会となった。

るのほな同窓会賞表彰式
田邊理事の司会により、社会貢献賞（河内文雄氏、篠宮正樹氏）の表彰式が行われた。伊藤会長より表彰盾と副賞が授与された。

るのほな同窓会受賞者講演
社会貢献受賞者、河内文雄氏、篠宮正樹氏が講演された。

記念講演
伊藤会長の司会により、徳久剛史氏（千葉大学長）が「千葉大学の将来構想」と題して講演された。

懇親会
済陽高穂副会長の司会により同窓会館ホールにて開会された。伊藤会長の挨拶に続き、嶋田俊恒氏の乾杯ご発声、地区のるのほな会長等からご挨拶を頂いた。歓談の時を過ごし、閉会となった。

平成26年度予算		平成25年度決算報告					
収入の部	款	予算額(円)	収入の部	款	予算額(円)	決算額(円)	対予算額(円)
収入の部	会費等(註1)	20,000,000	収入の部	会費等	20,000,000	20,036,000	36,000
	事業収入	5,500,000		事業収入(註1)	5,000,000	5,987,947	987,947
	他会計より受入	20,000		他会計より受入	100,000	19,153	-80,847
	寄付金	900,000		寄付金	500,000	2,100,000	1,600,000
	基金より取崩し(註2)	30,000,000		基金より取崩し(註2)	70,000,000	37,631,099	-32,368,901
	雑収入	20,000		雑収入	20,000	11,123	-8,877
	(当期収入計)	56,440,000		(当期収入計)	95,620,000	65,785,322	-29,834,678
	前年度繰越金受入	3,153,823		前年度繰越金受入	3,859,928	3,859,928	
	収入合計	59,593,823		収入合計	99,479,928	69,645,250	-29,834,678
	支出の部	総務費(註3)		12,800,000	支出の部	総務費(註3)	12,650,000
事業費(註4)		43,620,000	事業費(註4)	83,520,000		51,437,487	-32,082,513
法人税等		1,400,000	法人税等	1,400,000		1,233,800	-166,200
予備費		1,673,823	予備費	1,809,928		0	-1,809,928
積立金		100,000	積立金	100,000		4,100,000	4,000,000
次期繰越金			次期繰越金			3,153,823	3,153,823
支出合計		59,593,823	支出合計	99,479,928		69,645,250	-29,834,678

註1～4：収入、支出の主要細目等

	款		26年度予算	25年度予算	
収入の部	(註1) 事業収入	会員総合補償制度集金事務費	5,500,000	5,000,000	
	(註2) 同窓会基金より取り崩し	基金より同窓会館建設費に充当	30,000,000	70,000,000	
支出の部	(註3) 総務費	会議費	3,200,000	3,200,000	
		人件費	7,000,000	7,000,000	
		その他	2,600,000	2,450,000	
	(註4) 事業費	会報・会誌	5,000,000	4,600,000	
		学事奨励	・るのほな賞	550,000	550,000
			・るのほな美術展	200,000	200,000
			・猪之鼻奨学会	400,000	800,000
		各種助成	・附属図書館	800,000	800,000
			・白衣式	500,000	400,000
			・雄翔寮図書	100,000	100,000
			・留学生	200,000	200,000
			・白菊会	200,000	200,000
			・支部	3,400,000	3,400,000
			・同窓サポートプロジェクト	600,000	600,000
			・IT関連事業費	1,000,000	1,000,000
	同窓会館建設費	30,000,000			
	その他	670,000	670,000		

雑文雑談 食べ物雑考

石出猛史 (昭52)

10年程前の元旦、晴れて暖かかったので、外房の一宮町に出かけた。一宮町には旧幕時代、一ノ宮藩(加納氏 1万3千石)が置かれていた。上総一ノ宮駅から歩いて数分の所に、「上総国一の宮」である玉前神社がある。「一の宮」とは国中で一番格が高い神社のこと、千葉県では他に、下総の香取神宮(香取市)、安房国の安房神社(館山市)がある。

帰りがけ、あいていた駅前の食堂に入った。壁に貼られた短冊の品書に、「しよウさいふぐの一夜干」というのがあった。主人に毒はないのか聞いたところ、「無い」と。どこで獲れるのか尋ねると、「九十九里」といふ返事。

美食家で知られる北大路魯山人(1883-1959)が著した『河豚は毒魚か』という文がある。この中に、1920年頃の大阪毎日新聞に掲載された、「河豚毒力表」という記事が紹介されている。九州帝国大学医学部の福田得志博士が調査したもので、トラフグ・

クサフグ・シヨウサイフグなど11種類のフグの、それぞれの卵巣・肝臓・腸・皮・肉について、その毒性を、猛・強・弱・無の4段階に分類したものである。コモンフグは弱の肉を除いて、他の臓器すべてで猛もしくは強毒を有している。全く毒を持たないのが、サバフグである。臓器別では、卵巣がサバフグを除く10種で毒性を有しており、猛が5種、強が4種である。最も毒性が少ないのが肉で、コモンフグ以外の10種は無である。シヨウサイフグは、卵巣が猛、皮が強、肝臓と腸が弱、肉と睾丸は無で、一夜干の皮は剥がしてあったように思う。

(2003)が、それぞれ異なった合成法を報告している。

フグ毒の役割に関しては、専ら捕食者に対する防御のためと言われてきているが、ヘビやサソリの毒のように外に放出されるわけではなく、捕食された後で、毒性を発揮するのは、防御の意味をなさないと考えられる。

東亜大学の松村健道教授の論文によると、クサフグを用いた実験で、人工受精させた受精卵中の毒が、経時的に増えていくことから、外部から取り込まれて、フグの体内に蓄積されるといふ「食物連鎖説」が否定されて、「合成説」が証明された。また受精が行われる際、卵から毒が排出され、その毒を指してオスが集まってくるという「フェロモン説」を実験的に証明した。

筆者はフグ毒について門外漢であるが、フグ毒が卵巣以外の臓器にも広く分布していることから、フェロモン作用以外にも、フグの生存のための生理作用に関与しているように思われる。フグはオルニチン回路を有しているため、これを利用してテトロドトキシンを尿素に分解し、その結果、

体内の浸透圧調節を行っていらるのではという、仮説も提唱されている。フグは呼称が同じでも、地方によって異なった種を指すことがあるので、その鑑別は複雑である。辞書によつては、シヨウサイフグの説明に、マフグ・ゴマフグと呼ぶ所があると記述されているが、前述の毒力比較表では、これら3種を区別して比較している。シヨウサイフグは30センチを超え、棘がなく、胸びれの周辺に斑紋があるのが

特徴とある。その分布については、日本沿岸いたる所と記述している書物もあれば、東北以南の太平洋岸としている物もある。

トラフグなどと違って安価であることから、昔から東京の下町などで、よく食されてきたという。調理法は、鍋物・刺身・天麩羅・唐揚・一夜干など。寿司種としても良いという。万能である。

筆者は、フグをあまり美味と思つたことはないのだが。

平成26年度総会において 選出された名誉会員

- 本位田泰介 氏 (昭28)
- 岩倉 弘毅 氏 (昭37)



人事異動

- 教授**
 - 粘膜免疫学 (旧分化制御学) 植松 智 (平9・大阪市大) (東京大学医学研究所 特任教授より)
- 准教授**
 - 神経内科学 森 雅裕 (平3) (附属病院講師より)
 - 臨床試験部 菅原岳史 (昭63・岩手医大) (同領域特任准教授より)
- 講師**
 - 分子ウイルス学 齋藤謙悟 (平19院) (同領域助教より)
- 他大学教授**
 - 三澤園子 (平11) (同領域助教より)
 - 形成・美容外科 窪田吉孝 (平11) (同領域助教より)
 - 他大学教授 東京医療学院大学 保健医療学部 鴨下 博 (昭50) (東京都保健医療公社多摩北部医療センターより)
 - 東京女子医科大学附属東洋医学研究所 伊藤 隆 (昭56) (鹿島労災病院より)
 - 日本口腔学会理事長就任 丹沢 秀樹 (昭57)
 - 千葉県医師会長就任 田畑陽一郎 (昭46)

さあ、おいしい舞台へ

しよ 銚子丸

とき 季節、その瞬間の旬を味わっていただくためにどうぞ、おいしい舞台へ。

お近くの店舗は当店ホームページでご覧ください。 <http://www.choushimaru.co.jp>

全81店舗 千葉 32店舗 東京 20店舗 営業時間 午前11時～午後10時
 埼玉 15店舗 神奈川 14店舗 ※千葉駅前店のみ午後11時まで
 ※2013年4月19日現在 年中無休

千葉大学校友会総会のお知らせ

千葉大学校友会総会のお知らせ

日 時：平成26年11月15日 (土) 14時00分から

場 所：千葉大学けやき会館大ホール

(千葉大学西千葉キャンパス)

オンライン会報案内

http://www.inohana.jp/online/index.html



2014年7月以降に新しく配信されたものをいくつか紹介します。配信中の「同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介」については、千葉日報紙上で「頼りになります街のお医者さん」と連動させております。

オンライン会報 総合目次

Windowsで動画をご覧になる場合はInternet Explorerを推奨します。
Macintoshで動画をご覧になる場合はプラグインソフト「Flip4Mac」をインストールしてください。
>>ダウンロード >>インストール方法
ただし「*Mac/スマホ対応*」があるものは、プラグイン無しでご覧になれます。

- ・病院紹介
- ・同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・生涯学習講座
- ・求人・求職
- ・インタビュー
- ・国際交流
- ・都道府県医師対策
- ・オンライン書庫
- ・話題
- ・同窓会
- ・クラス会・他大学等
- ・「ほっとひといき」ちば通信(千葉日報)
- ・キャンパス便り
- ・協賛企業からのお知らせ

同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介



NEW
開業のいきさつと電子カルテ導入の経緯
本千葉小児科
院長 安田敏行
[2014.7.25 掲載]
Mac/スマホ対応



NEW
電子カルテを活用しての医院経営のむら耳鼻咽喉科
院長 野村 知弘
・独自システムを付加して医療業務改革 ▶映像を見る
・受付から会計、レセプト印刷 ▶映像を見る
[2014.7.25 掲載]
Mac/スマホ対応

生涯学習講座



NEW
石綿疾患の健康被害に関する医療情報
東京女子医科大学附属八千代医療センター病理診断科
教授 廣島健三



NEW
免疫記憶細胞の形成と維持
徳久剛史(千葉大学大学院医学研究 院分化制御学 教授)
*徳久剛史教授最終講義
[2014.7.25掲載]
Mac/スマホ対応

- ・増え続ける悪性胸膜中皮腫 ▶映像を見る
- ・石綿健康被害救済の認定基準 ▶映像を見る
- ・著書・論文
- ・悪性胸膜中皮腫病理診断の手引き
[2014.7.30 掲載]
Mac/スマホ対応



佐野医院での診療風景



佐野千寿子院長として、医院の
前より厚生労働省の保育対策等
促進事業の一環として、医院の
向く傍ら、2年
業。日本内科学会総合内科専門医、
道病院(現JR東京病院)、都立
墨東病院にて内科勤務を経て開
業。日本内科学会総合内科専門医、
日本禁煙学会認定禁煙専門指導
医、日本医師会認定産業医。
◆診療案内▽診療科 内科・小
児科▽受付時間 9~18時(水・
土曜日は9~12時30分)▽休日
日曜日・祝祭日▽住所 船橋市
本町3-3-17(JR船橋駅徒歩
7分、京成船橋駅徒歩5分)▽電
話 047(422)2278
◆病児保育「オー・キッズ」▽
保育時間 8~18時(土曜日は8
~13時)▽休業日 水・日曜日、
祝祭日▽電話 080(3416)
0122

船橋本町通りで開業して27年。
内科診療と合わせて小児科診療も
行い、地域に根ざした総合診療医
として家庭医として赤ちゃんから
高齢者までを診療してきた。
「昭和9年開業の義父の跡を引
き継ぎ、3世代、4世代にわたっ
て診ている家族も多い」と話す佐
野千寿子院長は、禁煙専門指導医
として禁煙治療にも力を入れている。
昼休みには保育園医、学校医、
産業医として地域医療の現場へ出
向く傍ら、2年
業。日本内科学会総合内科専門医、
道病院(現JR東京病院)、都立
墨東病院にて内科勤務を経て開
業。日本内科学会総合内科専門医、
日本禁煙学会認定禁煙専門指導
医、日本医師会認定産業医。
◆診療案内▽診療科 内科・小
児科▽受付時間 9~18時(水・
土曜日は9~12時30分)▽休日
日曜日・祝祭日▽住所 船橋市
本町3-3-17(JR船橋駅徒歩
7分、京成船橋駅徒歩5分)▽電
話 047(422)2278
◆病児保育「オー・キッズ」▽
保育時間 8~18時(土曜日は8
~13時)▽休業日 水・日曜日、
祝祭日▽電話 080(3416)
0122

医療法人社団蘭寿会
佐野 医院

病児保育で働く母親を支援

2階で病児保育「オー・キッズ」
をオープンさせた。
毎朝6時30分頃には、急に発熱
した子どもの母親から、悲鳴のよ
うな預け入れ予約の電話を受ける
ことが日課。看護師と保育士5人
とで、生後2カ月~小学校3年生
までの入院の必要はないが保育園
や学校へは行けない病児を預かり
保育している。働く母親の仕事と
子育ての両立に欠かせない、究極
の支援を目指す。



■オンライン書庫

【書籍】

掲載書籍をご覧になりたい方は同窓会本部へご連絡ください。

1. 会員著書



NEW
前立腺がん健康長寿に関する著書の紹介
 伊藤晴夫(千葉大学名誉教授)
 ・前立腺がん予防法 ▶ 映像を見る
 ・イラストでわかる前立腺がん ▶ 映像を見る
 [2014.7.30掲載] *Mac/スマホ対応*

3. その他



NEW
佐藤研一名誉教授を偲ぶ会
十三回忌

■話題

NEW

2014年度みののな同窓会賞(社会貢献賞)受賞講演



・待合室から医療を変えようプロジェクト(略称:待ちプロ)
 稲毛サテッククリニック
 院長 河内 文雄
 [2014.7.25 掲載]
 Mac/スマホ対応



・市民に正しい医療情報を提供し、自ら生活習慣病を予防する示唆を提供する
 西船内科院長、NPO小象の会代表
 篠宮 正樹
 [2014.7.25 掲載]
 Mac/スマホ対応

■キャンパス便り



NEW
千葉大学の将来構想
 ・千葉大学の昨日・今日・明日への展望 ▶ 映像を見る
 ・千葉大学医学部の現況と明日への視点 ▶ 映像を見る
 ~千葉大ブランドの確立~
 徳久剛史(千葉大学長)
 平成26年度みののな同窓会総会(2014.6.14開催)における特別講演
 [2013.7.25 掲載] *Mac/スマホ対応*

*閲覧には会員用IDとパスワードが必要です。お持ちでない方は申請ページをご覧ください。



稲毛サテッククリニックのスタッフ。前列左から2人目が河内文雄院長

電話 043(253)5517

◆診療案内▽診療科 内科
 ・小児科・皮膚科・呼吸器科
 ・循環器科▽受付時間 10時
 13時・15時・18時(日曜日は10
 時・13時)▽休日 火・祝祭
 日▽住所 千葉市稲毛区小仲
 台1の4の20イオン稲毛店4
 階(JR稲毛駅徒歩2分)▽

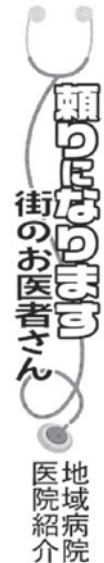
◆河内文雄院長プロフィール
 1975年千葉大学医学部
 卒業。千葉大学医学部付属病
 院、国立療養所千葉東病院、
 厚生連塩谷病院、医療法人社
 団晴山会平山病院などで勤務
 後、現職。

「多角的な視野のもと、適切な医療の実践を心がけたい」と話す河内文雄院長は、検査結果を全て患者に渡し、医師と患者が相談しながら一人一人に適合する診療を目指す。

「待合室から医療を変えようプロジェクト」を立ちあげ、社会運動として展開する。河内院長は「国内約30万カ所の待合室に、発想の転換からプラス面を引き出せるよう、ぜひ皆さまのお力をお借りしたい」と意欲的だ。

稲毛サテッククリニックでは、1990年の開業以来、修練した医師たちが内科・外科の領域にこだわらず診療を行っている。

医療現場に、たゆまぬ改革を



診療の傍ら、医療現場の改革に尽力してきた。23年間、土日診療を欠かさず、2006年救急医療功労表彰、12年には保険医療功労表彰のほか、東京大学公共政策大学院医療政策研究ユニットの医療政策実践コミュニティーに参加。

稲毛サテッククリニックは、1990年の開業以来、修練した医師たちが内科・外科の領域にこだわらず診療を行っている。

(平成26年8月15日現在)

新みの は な 同 窓 会 館 寄 附 者 ご 芳 名



高額寄附者ご芳名

(敬称略)

300万円以上ご寄附

企業・法人等

財団法人 同仁会

200万円以上ご寄附

企業・法人等

(株) 千葉京成ホテル
鳥居薬品(株)

医学部後援会

医学部後援会

寄附者ご芳名

(敬称略)

一般個人

片野 鈴枝
加藤 良二
久保田勤也
稲瀬 道和
進藤 輝山

医療機関

旭神経内科病院
国保旭中央病院
(医) 井上記念病院
(医) 大平会嶺井第一病院
(医) かすみクリニック
上都賀総合病院
三川鉄千葉病院

同窓会員

矢野浩二郎(平11)

100万円以上ご寄附

医療機関

旭神経内科病院

(医) 大平会嶺井第一病院

三川鉄千葉病院

千葉中央メディカルセンター

東船橋病院

(医) 船橋整形外科病院

(医) 志方記念三木クリニック

企業・法人等

アステラス製薬(株)
キッコーマン(株)
小太郎漢方製薬(株)

第一三共(株)
武田薬品工業(株)
田辺三菱製薬(株)
中外製薬(株)

(株) ツムラ

ファイザー(株)

千葉大学医学部附属病院

臨床医学研究助成会

医学部後援会

小埜 清

同窓会員

土屋 與之(昭24)
羽生富士夫(昭29)
谷嶋 俊雄(昭34)
谷嶋 つね(昭35)
加藤 昌義(昭36)
岩倉 弘毅(昭37)

(医) 船橋整形外科病院

(医) 習志野第一病院

(医) 三橋病院

(医) みはま病院

企業・法人等

SMB C日興証券(株)
赤星工業(株)
旭化成ファーマ(株)
あすか製薬(株)
アステラス製薬(株)
アストラゼネカ(株)
アルフレッサファーマ(株)
石井食品(株)
(株) 石渡商事
岩瀬薬品(株)
(株) ウチタ和漢薬
栄研化学(株)
エスエス製薬(株)

嶺井 進(昭38)

伊藤 晴夫(昭39)

今津 暉(昭40)

赤井 壽紀(昭43)

唐澤 祥人(昭43)

辛 秀雄(昭44)

中村 陽子(昭44)

大西久仁彦(昭47)

旭 俊臣(昭48)

早乙女 勇(昭48)

秋葉 哲生(昭50)

福井 博行(昭56)

白澤 浩(昭57)

土屋 広明(昭57)

角田 隆文(昭57)

仲野 公一(昭63)

岡本 和久(平2)

土井 茂治(平3)

小山 虎信(公衆衛生学)

(株) エスアールエル

エーザイ(株)

エース損害保険(株)

エルメッドエーザイ(株)

大塚製薬(株)

(株) 大塚製薬工場

小野薬品工業(株)

科研製薬(株)

化研生薬(株)

鹿島建設(株)

勝又自動車(株)

(株) 北原防災

キッコーマン(株)

キッセイ薬品工業(株)

杏林製薬(株)

協和醗酵工業(株)

キリンファーマ(株)

グラクソ・スミスクライン(株)

クラシエ製薬(株)

田中 光 土屋 與之 中島 令一 永瀬 治彦 長澤 仁一 福永 和雄 專24 伊佐 博夫 石井 貞一 植草富二郎 大橋 平治 奥野 文雄 河野 正賢 下坂正次郎 土田 功一 中村 彰 中村 精男 久安 徹 南谷 幹夫 山口 寅三 佐藤 恒好 昭25 池田佐嘉衛 越後貫 誠 葛田 瑞世 專25 相磯 敬明 石毛 義治 円城寺 栄 河崎 明彦 木内 達弥 嶋田 勉 高木 美典 中澤 甫計 中野 正義 中村 裕 畑 徹 宮内謙二郎	月岡 道雄 寺島東洋三 中村 和之 長崎 邦泰 菱木 達明 武藤 滋 石井 克巳 石川 哲也 太田廣三郎 岡田 宏一 神山 一郎 霜島 正雄 鈴木 一郎 徳政 義和 中村 瞭 幡野 永由 福山 正臣 山川 晋吾 山本 惇 稲田 正實 佐久間光史 渡邊 良彦 青木 宣昭 市川 邦男 粕谷 秀雄 神原 昌言 島田 光重 下野 武 竹之内 弘 中田 秀明 長嶋 晟 奈良林 定 船曳 甫 森川 二郎	山崎 義人 渡辺 武夫 阿部 定生 伊藤 進 大倉 淳男 四家正一郎 土手内守人 細田 裕 大和 祐航 渡部 士郎 專26 大沢 弘和 津村 澄雄 平川 達 昭27 阿部 忠夫 有馬 忠正 大濱 博利 小沢 昭司 櫻井 稔 住吉 孝男 高見澤裕吉 原 恒男 武宮 三三 中野 清幸 鍋谷 欣市 藤田龍五郎 三橋 慎一 渡辺 武 專27 石橋 源三 壬生倉 勝 昭28 青木太三郎 阿部田辰一 上野 正和 奥井 勝二	横山 宏 石井 邦夫 糸井 久雄 久我 哲郎 武井 稔 西宮 脩 柳澤 文憲 吉田 敏郎 小関 芳昌 内藤 和穂 森 巨敬 有田 文章 井上 幸万 小川源太郎 河目 堯介 黄田 照光 莊司 榮徳 橋爪 壮 関口 和夫 得本 真義 長崎 進 広田 和俊 本間 康正 渡辺 勲 磯垣 弘 秋山 龍男 石川 佳夫 梅澤 英正 小田 博之	小幡 裕 金子 敏郎 川邊 兼美 熊谷 信夫 小山隆一郎 柴崎 晃 鈴木 正剛 平林 健六 塚本 勉 戸賀崎義治 長谷川正博 古川 英政 松本 龍二 山下 泰徳 吉田 道 若杉幹太郎 昭29 荒木 晃 大藤 正雄 鹿山 徳男 佐藤 忠夫 柴田千葉男 富岡 清海 中野 練一 長谷川 透 福島 通夫 和田 房治 昭30 青木 昭治 浅見 敦 新井多喜男 伊谷 昭幸 石神 一良 伊藤 敏夫 大坪 雄三 加濃 正明 小林 健次 小林 富久 齊藤 正道 清水 良平	加藤 一雄 唐木 清一 窪田 靖夫 小澁 雅亮 澤田 勤也 清水 惟義 鈴木 正巳 武市 亨 寺嶋 克郎 成田 光陽 平田 正雄 本位田泰介 森山 典男 山田 達哉 吉田 恭二 有馬 道男 大原 一夫 窪田 叔子 佐野 迪雄 島崎 淳 中塚 正夫 根本 幸一 羽生富士夫 米本 昭彦 秋元 駿一 浅利 行男 石神 一良 伊藤 敏夫 大坪 雄三 加濃 正明 小林 健次 小林 富久 齊藤 正道 清水 良平	志村 昭光 高橋 宣光 十束 支朗 中島 和彦 永野 俊雄 藤山 嘉信 松田三樹雄 南園 義一 森田 茂 吉原 一郎 昭31 庵原 昭一 海老原雄一 加藤 繁夫 桑原 久 杉山 伸子 西原源太郎 森 碧 山口 慶三 飯塚 正章 大久保恵司 神田 收茲 斎藤 幸洋 高橋 柳子 竹内 達 戸川 清 夏目 隆一 野口 照義 芳賀 士郎 平嶋 毅 藤田 真 牧野 耕治 横尾 敦夫 和田 康敬 安里 洋 石川 稔生	磯野 可一 宇野 一眞 岡本 達也 小高 稔 加藤 直幸 上山滋太郎 小林 延年 近藤洋一郎 佐藤 重明 鈴木 茂 中田 益允 成田 静子 石川美智子 佐藤 俊一 花岡 建夫 椎名 益男 嶋田 俊恒 菅谷 健彦 高野 光司 辻 陽雄 長崎 護 林 國春 谷川 章子 御子柴幸男 昭34 赤星 至朗 植田 伸夫 遠藤 幸男 倉持 正昭 坂田 早苗 清水順三郎 鈴木 高彦 多田 富雄 関 泰男 原 久彌 藤田 昌宏 矢崎 光保 矢野 榎多 田口 勝 横山 哲夫 吉井 功 石川 孝 大井 利夫 岡村 隆夫 岡田 光生 軽部 達夫	柏戸 正英 新井 禮子 小形岳三郎 小野寺美津雄 金子 勇 小林 延年 近藤洋一郎 佐藤 重明 鈴木 茂 中田 益允 成田 静子 石川美智子 佐藤 俊一 花岡 建夫 椎名 益男 嶋田 俊恒 菅谷 健彦 高野 光司 辻 陽雄 長崎 護 林 國春 谷川 章子 御子柴幸男 昭34 赤星 至朗 植田 伸夫 遠藤 幸男 倉持 正昭 坂田 早苗 清水順三郎 鈴木 高彦 多田 富雄 関 泰男 原 久彌 藤田 昌宏 矢崎 光保 矢野 榎多 田口 勝 横山 哲夫 吉井 功 石川 孝 大井 利夫 岡村 隆夫 岡田 光生 軽部 達夫	海保 允 北方 勇輔 河野 宏 柳原 秀三 佐藤 重明 佐藤 通 鈴木 茂 中田 益允 成田 静子 石川美智子 佐藤 俊一 花岡 建夫 椎名 益男 嶋田 俊恒 菅谷 健彦 高野 光司 辻 陽雄 長崎 護 林 國春 谷川 章子 御子柴幸男 昭34 赤星 至朗 植田 伸夫 遠藤 幸男 倉持 正昭 坂田 早苗 清水順三郎 鈴木 高彦 多田 富雄 関 泰男 原 久彌 藤田 昌宏 矢崎 光保 矢野 榎多 田口 勝 横山 哲夫 吉井 功 石川 孝 大井 利夫 岡村 隆夫 岡田 光生 軽部 達夫	神田 敬 草刈 隆 阪 信 真永 嘉久 佐藤 甫夫 嶋田 裕 千野宗之進 永田 一郎 西川 侃介 藤村 眞示 堀江 武 高梨 健治 中山 博 原田 康行 藤森 宗徳 堀口 東司 森 豊 柳沢健一郎 山本 駿一 油井 信春 綿引 義博 昭38 浅野 尚 穴沢 輝一 大木 勲 大和田英美 金武 禮之 金城 和夫 黄田 江庭 香西 襄 関谷 信平 高野 正義 谷 修一 榎 二郎 寺嶋 周 中田 瑛浩 成瀬 孟 林 恵美 平形 征	伊東 治武 入枝幸三郎 奥山 隆保 大原 啓介 黒岩 璋光 斎藤 全彦 杉岡 昌明 瀬川 襄 高井 満 中村 嘉孝 伯野 中彦 福士 和夫 布施 吉弘 村田三紗子 矢野 靖子 山口 國行 吉川 正宏 佐々木 守 渡辺 實 安達 元明 木下 敏子 大津 裕司 加藤 友衛 北村 温 栗原 伸夫 畔田 浩 佐藤 裕俊 蘭部 和子 玉置 哲也 十河 正寛 寺嶋 市郎 鳥羽 剛 長山 忠雄 野本 泰正 林 直諒 藤本 重義
--	--	---	---	--	--	--	---	---	--	--	---

松井 宣夫	三井 静	嶺井 進	村山 憲太	山口 宗彦	渡部 浩二	昭39	秋草 克彦	阿部 一憲	飯田 義信	上原 朗	遠藤 毅	大塚 嘉則	岡野 照美	貝田 豊郷	河井 克仁	木内 政寛	小林 俊憲	今野 貞夫	坂田 晃康	重松 秀一	清水 天	鈴木 守	高沢 博	千葉 胤道	永山 恵美子	根岸 敬矩	平形 昭代	万本 盛三	村上 信乃	矢島 義忠	山下 明美	山本 弘	昭40	青木 至	遠山 敬介	漆原 昌人	大木 健資														
三木 亮	緑川 隆	宮治 誠	山岸 亜人	若新 政史			鯉坂 秀明	田井 千津子	伊藤 晴夫	瓜生 東一	大河原 邦夫	大森 忠昭	小野 健次郎	角張 雄二	川西 恭子	古謝 景春	小林 豊	斎藤 裕康	崎山 樹	清水 完次朗	白井 鎮夫	鈴木 博一	高根 健	塚田 正男	那須野 光政	原 輝彦	深尾 立	三浦 徹蔵	本村 八恵子	山口 正敏	山下 武広	米満 道子		天海 照夫	今津 曄	海老沼 光治	大本 恭平														
小澤 弘侑	荻谷 英郎	税所 宏光	辛 京碩	島 毅	曾野 文豊	高瀬 靖広	瀧澤 弘隆	田中 則好	榑木 亮太郎	西村 和子	伊藤 ルミ	日景 高志	石神 敏子	山浦 晶	吉川 広和	昭41	天羽 達郎	飯島 幸雄	大島 仁士	大塚 明彦	若新 洋子	神谷 努	桑木 綱一	小林 伸行	佐々木 徳秀	里村 洋一	島田 哲男	鈴木 豊	高橋 淳一	竹内 豊	田中 文隆	飯田 龍一	中島 忍	市川 清子	平澤 博之	福田 淳	溝口 勝														
冠木 徹彦	小島 莊明	崎山 比早子	関谷 宗英	妹尾 素淵	黒田 紀子	高野 元昭	竹内 龍雄	角田 興一	長尾 龍郎	野口 眞利	服部 芳夫	武者 廣隆	柳沢 貫一	山田 勝巳	渡邊 攻	新井 茂郎	飯島 一彦	王子 明	落合 武徳	柏原 英彦	菊池 義公	小林 英夫	三枝 俊夫	佐々木 望	塩沢 博	白濱 龍興	鈴木 弓	高山 和夫	竹島 徹	塚本 嘉一	永井 公大	中村 宣生	半澤 偶	福田 康一郎	御園 生正紀	安江 万二															
鈴木 一男	渡辺 寛	石井 從道	伊藤 達雄	関 隆郎	黒田 剛志	勝俣 剛志	能勢 晴美	倉田 矩正	鈴木 一郎	高崎 健	田中 弘一	宮坂 斉	中村 謙介	西牟田 敏之	野崎 忠信	林 龍哉	日笠山 一郎	藤澤 武彦	宮本 忠昭	森田 清	安田 耕作	吉野 紘正	昭43	青木 靖雄	赤尾 建夫	石井 豊信	一瀬 正治	岩間 汪美	太田 東吾	鹿島 孝	加藤 之康	川村 功	栗山 喬之	國保 能彦	神津 玲子	佐藤 英樹	佐野 元昭														
竜 良方	渡辺 寛	石井 從道	伊藤 達雄	関 隆郎	黒田 剛志	勝俣 剛志	能勢 晴美	倉田 矩正	鈴木 一郎	高崎 健	田中 弘一	宮坂 斉	中村 謙介	西牟田 敏之	野崎 忠信	林 龍哉	日笠山 一郎	藤澤 武彦	宮本 忠昭	森田 清	安田 耕作	吉野 紘正	昭43	青木 靖雄	赤尾 建夫	石井 豊信	一瀬 正治	岩間 汪美	太田 東吾	鹿島 孝	加藤 之康	川村 功	栗山 喬之	國保 能彦	神津 玲子	佐藤 英樹	佐野 元昭														
鈴木 昭一	諏訪 敏一	滝川 弘志	玉井 輝章	土田 弘基	鳥居 敏明	中嶋 弘道	中村 宏	藤塚 光慶	舟橋 満寿子	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	李 思元	保坂 忠成	和田 源司	昭44	浅野 武秀	飯塚 登	石川 達雄	内海 武彦	伴野 悠士	中山 章	野田 宏子	長谷川 毅	林 泰	宮蘭 千代子	榎本 純子	向井 将	与儀 裕	渡辺 義二	高瀬 高穂	千葉 幸恵	牛嶋 直子	萩原 一夫	門井 隆司	金田 庸一														
鈴木 秀	直秀	高山 直彦	千葉 彌幸	鳥居 雅江	仲尾 清	中林 正雄	高岡 邦子	藤原 克巳	星野 聡	堀川 義文	盛 克己	堀井 文千代	松清 央	李 思元	保坂 忠成	和田 源司	昭44	浅野 武秀	飯塚 登	石川 達雄	内海 武彦	伴野 悠士	中山 章	野田 宏子	長谷川 毅	林 泰	宮蘭 千代子	榎本 純子	向井 将	与儀 裕	渡辺 義二	高瀬 高穂	千葉 幸恵	牛嶋 直子	萩原 一夫	門井 隆司	金田 庸一														
高橋 秀禎	吉井 與志彦	吉田 行夫	渡辺 孝太郎	和田 力	昭45	相田 尚文	有賀 直文	小俣 政男	一戸 彰	細山 公子	榎本 正満	北島 忠昭	黒田 重史	堺 常雄	菅ヶ谷 純弘	高橋 正年	滝沢 淳	寺澤 捷年	伴野 悠士	中山 章	野田 宏子	長谷川 毅	林 泰	宮蘭 千代子	榎本 純子	向井 将	与儀 裕	渡辺 義二	高瀬 高穂	千葉 幸恵	牛嶋 直子	萩原 一夫	門井 隆司	金田 庸一																	
山岸 厚子	吉田 明弘	吉田 操	渡辺 義郎	新井 裕二	多賀谷 茂	高瀬 学	高橋 誠	谷口 環子	中村 欽哉	長谷川 吉則	濱野 頼隆	平野 和哉	船津 恵一	保坂 英一	柳橋 京子	矢端 幸夫	吉田 孝宣	若林 康之	昭47	須崎 勢至	鈴木 洋文	高島 常夫	宇津見 和郎	大岩 孝司	大西 久仁彦	尾形 実	加藤 誠	北沢 栄次	眞山 和徳	勝呂 徹	鈴木 信夫	田井 東風	唐司 則之	中村 和郎	西川 哲男	野口 武英	檜垣 進	力武 知之													
木澤 功	北野 邦孝	久保 正夫	大川 昌権	櫻井 幸弘	鈴木 直人	高瀬 学	河村 和子	杉本 和夫	小林 弘忠	結東 温	沓掛 伸二	木口 博之	山岸 厚子	吉田 明弘	吉田 操	渡辺 義郎	新井 裕二	多賀谷 茂	高瀬 学	高橋 誠	谷口 環子	中村 欽哉	長谷川 吉則	濱野 頼隆	平野 和哉	船津 恵一	保坂 英一	柳橋 京子	矢端 幸夫	吉田 孝宣	若林 康之	昭47	須崎 勢至	鈴木 洋文	高島 常夫	宇津見 和郎	大岩 孝司	大西 久仁彦	尾形 実	加藤 誠	北沢 栄次	眞山 和徳	勝呂 徹	鈴木 信夫	田井 東風	唐司 則之	中村 和郎	西川 哲男	野口 武英	檜垣 進	力武 知之
若山 芳彦	渡辺 滋	赤松 徹	旭 俊臣	岩田 泰子	上野 正純	猪股 弘明	梅田 透	大槻 俊夫	小川 富雄	笠貫 順二	金塚 東	君塚 五郎	片桐 博子	河野 陽一	小林 道生	坂口 明	白井 厚治	須崎 勢至	須崎 洋文	高島 常夫	宇津見 和郎	大岩 孝司	大西 久仁彦	尾形 実	加藤 誠	北沢 栄次	眞山 和徳	勝呂 徹	鈴木 信夫	田井 東風	唐司 則之	中村 和郎	西川 哲男	野口 武英	檜垣 進	力武 知之															
脇坂 正美	浅野 誠	一木 昇	上村 加代子	岩本 逸夫	上村 重明	大内 美南	大場 敏明	小川 清	兼坂 俊章	木内 信二	木村 秀樹	高圓 博文	小林 健一	後藤 澄雄	佐藤 展将	末石 眞	鈴木 晴彦	早乙女 勇	高安 賢一	千葉 次郎	内藤 威	永山 洋子	内田 宏子	野村 馨	野村 馨	千見寺 徹	前川 岩夫	保高由美子	守田 政彦	安野 憲一	山田 均	横山 淳一	青柳 光生																		

永瀬 譲史	内藤 正文	戸塚 清一	高林 克己	勝呂 慶子	篠遠 彰	佐々木 健	齊藤 比古	小出 義雄	北川 道隆	河内 文雄	上村 公平	大森 景文	上田 志朗	安東 昌夫	麻生 誠二郎	秋葉 哲生	昭50	渡辺 順子	森川 眞一	渡辺 博子	長谷川 純	西山 眞理子	中村 文子	土佐 純一	田中 誓一	田中 秀之	武井 泉	鈴木 亮二	佐藤 武幸	五月 直樹	木村 純	田辺 惠美子	片桐 誠	江原 正明	石神 博昭	浅井 隆善							
小林 けい子	中尾 照逸	富谷 久雄	土佐 寛順	隆 元英	篠宮 正樹	佐野 千寿子	佐伯 直勝	後藤 信昭	木村 道雄	川口 英昭	鴨下 博	沖本 光典	大塚 裕	入江 氏康	飯田 眞司	秋谷 徹		弓削 一郎	三上 恵只	鳩貝 文彦	野村 恭子	西山 裕孝	飛澤 彰	南郷 晃	田邊 政裕	田中 正	田中 順子	高田 善治	鈴木 洋一	桜庭 庸悦	小林 裕夫	菊地 紀夫	金子 作蔵	入江 澄子	岩津 都希雄	有田 正明							
久保田 浩一	北澄 忠雄	香村 衡一	尾崎 正彦	稲田 晴生	五十嵐 辰男	昭52	山本 和夫	八木 橋美範	皆川 秀夫	松谷 正一	蒔田 国伸	布施 秀樹	菱沼 静男	南波 美伸	寺野 隆	塚本 剛	篠塚 正彦	斎藤 典男	小松 健祐	伊古田 裕子	川村 健二	門山 周文	小野 和則	小野 純一	岩崎 秀昭	森本 典子	赤嶺 正裕	昭51	山本 博憲	山岸 文雄	村野 俊一	宮崎 彰	松谷 和徳	増田 政久	野村 文夫	西山 文夫	高橋 道子						
小林 彰	木村 正幸	香村 玲子	海宝 雄一	大迫 政智	奥野 妙子		由佐 俊和	森 順子	松村 勉	蒔田 順子	紅谷 明	姫野 雄司	林 春幸	中山 朝行	寺崎 和久	高橋 兼重	佐藤 兼重	坂本 薫	児島 孝行	黒崎 知道	河合 誠義	鏡味 勝	小野 元子	大塚 芳克	井坂 茂夫	秋田 徹	横須賀 收	山本 日出樹	森野 正明	宮崎 大成	宮内 道雄	増村 道雄	本田 徹	野積 邦義	登坂 薫								
五十嵐 忠彦	昭54	渡邊 浄	若林 正治	吉原 俊雄	吉澤 卓	山上 岩男	森 照男	三瀧 忠道	野々村 裕子	仲田 勲生	得丸 幸夫	寺井 勝	武永 博	角南 兼朗	林 春幸	菅沢 寛健	小川 敏生	川俣 泰男	石川 てる代	上田 源次郎	宇田川 晃一	荻野 幸伸	萩野 幸伸	石川 幸伸	織田 成人	遠藤 和男	上野 泉	伊藤 公道	安 徳純	山田 善重	山口 一	松前 孝幸	升田 吉雄	古川 斎	堀部 和夫	伏島 堅二	兵頭 明夫	林田 和也	中村 勉	塚田 和美	高田 俊一	鈴木 久史	鈴木 純
伊澤 英次		和 二郎	李 元浩	吉田 英生	山口 哲生	山川 久美	塚田 純子	花岡 明宏	中村 弘	内藤 隆	徳重 克彦	塚本 哲也	高良 健司	鈴木 文晴	菅原 美千代	北村 由美子	加藤 義治	織田 成人	遠藤 和男	雄賀 多聡	上杉 健哲	有我 隆光	昭55	渡辺 恒家	宮本 恒彦	林 北見	宮崎 泉	巽 浩一郎	高野 正一	鈴木 良一	杉浦 信之	下条 直樹	近藤 福雄	小林 進	掛田 充克	大内 純太郎	石毛 俊行						
岩崎 伸行	伊藤 隆	井関 徹	渡辺 昭彦	吉永 勝訓	諸田 英夫	松井 英雄	藤田 幸弘	平賀 京子	水見 尚武	橋本 尚武	長島 通	鳥居 俊男	土田 豊美	天野 穂高	昭57	吉川 正治	森永 哲文	望月 眞人	三浦 正義	松村 竜太郎	福武 敏夫	松本 俊一	長谷川 潔	中村 広志	友利 秀憲	武内 重康	瀧口 正樹	高田 博之	鈴木 裕子	清水 俊行	座間 秀一	五島 茂之	川副 泰成	加藤 邦彦	小川 利隆	上田 昌弘							
丸 宏昭	幡野 清吾	中村 隆文	角田 敬久	土屋 信昭	佐野 信昭	龍野 一郎	白澤 直人	下山 克己	篠崎 文夫	木村 隆	海保 隆	岡田 淳一	ピアス 洋子	石津 谷義昭	昭59	脇田 久	湯山 琢夫	森石 丈二	道永 幸治	松村 千恵子	堀内 啓	福井 博行	馬場 章	永島 一彰	中島 明弘	土屋 明弘	道永 麻里	田川 まさみ	平良 眞人	杉山 隆夫	繁田 美香	小林 史朗	高 在完	亀井 克彦	笠松 紀雄	岡 陽一							
昭60	吉田 直人	山内 晃	持田 育男	光永 伸一郎	星野 育男	平井 伸治	中川 宏治	田中 尚武	高梨 一紀	下山 恵美	桑原 聡	小野崎 郁史	岡本 弦	伊豫 雅臣	磯野 史朗	赤倉 功一郎	昭59	山本 修一	山崎 正志	宮副 一郎	星岡 明	深沢 元伸	西村 毅	豊崎 哲也	田中 泰弘	滝口 裕一	鈴木 俊英	平井 眞紀子	今田 進	亀山 康男	岩立 康男	池田 政文	昭58	山本 恭平	山口 卓秀	守月 尚嗣	丸山 敬芳						
	渡邊 和義	山本 光之	守矢 尚之	村井 久裕	松原 肇	藤本 肇	西島 由美	露口 利夫	高橋 聡	高石 圭史	幸田 利行	勝木 利行	奥脇 治郎	岸 雅子	市川 智彦	伊豆 敦子	横内 敬二	山崎 俊司	森田 昌浩	丸山 浩	武城 英明	日野 義宣	長門 玲子	田中 和幸	高木 一也	品田 良之	近藤 克則	岸 幹夫	加藤 雄一	石川 信泰	和久 真一	山西 友典	安原 一彰	古川 敬芳									
昭62	結城 崇夫	村上 康二	松永 保	林 哲二	西脇 美樹	長門 文子	寺内 隆司	園田 昌毅	須藤 知子	清水 宏明	佐藤 晴彦	木元 博史	菊地 浩之	加藤 直也	香山 晃太郎	今牧 瑞浦	石田 厚	石井 浩	安達 智江	昭61	保元 明彦	森嶋 友一	林 秀樹	鍋谷 圭宏	豊沢 伸治	長 晃平	竹田 秀一	佐野 三千広	古口 徳雄	窪田 徳幸	北崎 等	菊野 朝志	岡田 朝志	石島 秀紀	有田 洋右	阿部 恭久							
	渡辺 啓治	村松 信之	三浦 雄三	萩原 雅司	西村 美樹	中澤 亨	高谷 美成	芹澤 寛	新藤 貴志	沢田 直弘	櫻本 直弘	木村 直弘	金田 庸一	片橋 立秋	伊藤 健司	石井 光子	有田 誠司	吉野 薫	師尾 幸正	宮澤 隆雄	並木 信一	中 信一	豊根 知明	土屋 英明	田邊 昌彦	鈴木 誠一	坂井 義孝	興村 正史	木元 憲一	北川 憲一	佐藤 典子	井上 雅子	五十嵐 裕章	安藤 聡									

松井 芳文	深澤 元晴	西内 徹	中村伸一郎	徳山 竜彦	杉浦 敏之	獅子原正樹	小松 尚也	黒須 克志	金山 竜沢	笠原 靖紀	大塚 将之	宇野 隆	井上 寿久	石井 秀始	粟飯原直人	青木 俊郎	昭63	山口 浩史	安原 晃一	松江 弘之	佐藤さゆり	二宮栄一郎	富澤 稔	田島 康夫	関川 敏彦	菅谷 啓之	志賀 英敏	佐々木結花	坂本 直哉	今野 慎	小山 秀彦	加藤 大介	大曾根義輝	坂本 明美	押田 正規	秋元 英里	青江 知彦
松下 一之	藤原 剛	長嶋 健	仲野 公一	中世古知昭	傳田 忠道	白井よんえ	佐藤 正俊	小林 欣夫	蟹澤 泉	金井 文彦	柿沼 由彦	江澤 英史	内田 佳孝	石川 輝彦	猪狩 英俊	安達 佳宏	遊座 潤	山内 雅人	松永 正訓	福田 浩之	野首 光弘	中村 道夫	中馬 敦	武田 恒弘	鈴木 正人	新見 将泰	佐藤 直秀	佐々木 一	三枝 敬史	呉 青洋	熊谷 匡也	朝比奈真由美	江畑 龍樹	大賀 優	飯嶋 義浩	青柳 正彦	
林 裕家	野澤 聡志	塚本 真	高柳 建志	鈴木 敏幸	鈴木 啓悦	清水 栄司	佐藤 宏	五月女 隆	神戸 敏行	神川 康也	勝見 明	岡田 吉弘	大測 和弘	老沼 和弘	石川 文彦	安西 尚彦	平2	八木 さやか	南野 徹	船橋 伸慎	原木 真名	花澤 豊行	手塚健太郎	田垣内祐吾	関根 郁夫	須関 馨	杉戸 一寿	佐藤 孝久	北村 伸哉	加藤 厚	植田 健	平元 良夫	渡部 幸太郎	茂木 健司	満山 大吉	丸 泰司	
藤井 克則	浜田 洋通	中川 晃一	田中 保彦	田内 利幸	鈴木 洋人	鈴木 淳也	傳田 和美	佐藤 悟郎	木下 知明	川名 秀忠	嘉藤 貴子	岡本 和久	小風 真	太田 真	石和田稔彦	安藤 策郎	八木 毅典	宮内 英聡	皆川 真規	平栗 雅樹	濱野ナナ子	中島 文毅	知久 毅	高瀬 完	須藤 真児	鈴木 実	真田 昌彦	金 昌世	菊池 周一	大森 繁成	渡辺 絵里	吉留 博之	村岡 秀樹	三木 隆司			
徳永 進	関谷 武司	鈴木 陽一	久保 聡志	太田 景治	天野 景治	平5	山本 正二	矢花 孝文	三橋 繁	町田南海男	樋口 佳則	貞広 智仁	阪井 守	小泉 健一	加藤 里絵	遠藤 恒宏	磯部 公一	阿部 雄造	平4	三浦 文彦	松野 公紀	穴倉めぐみ	二村 静子	中島 光一	竹内 孝治	白鳥 享	下枝 宣史	斎藤 雅彦	倉持 宏明	小島 博之	倉持 宏明	石塚 伸子	市川 千秋	早川 睦	平3	吉富 秀幸	丸山 紀史
中村 晃	奥 佳代	杉本 克己	坂尾誠一郎	岸 宏久	今井 雅子	浅井 利大	吉田 克彦	奥村 恵子	谷嶋 隆之	三橋 修	獅子原薫子	高瀬 一嘉	櫻井 健一	小宮 顕	川平 洋	奥山 恭子	梅澤 正美	井上 淳	石井 徹	金子 透子	新井 誠人	水鳥川俊夫	松尾 幸治	大門 雅夫	中山 貴裕	福山 郁修	清水 公一	鹿間 毅	小林 弘一	小島 広成	草塩 公彦	今井 直樹	天野 晋	吉村光太郎	湯浅 讓治		
高屋敷 吏	三階 貴史	小椋 健司	押田 恵子	岡田 尚子	井上 博	天野 佳子	浅井 利大	横張 賢司	村田 勝宏	溝渕 敬子	松本 桂子	細井 郁芳	橋本 光宏	服部功太郎	当間 雄之	竹内 真紀	木原 真紀	金子 透子	新井 誠人	平7	水鳥川俊夫	松尾 幸治	大門 雅夫	中山 貴裕	福山 郁修	清水 公一	鹿間 毅	小林 弘一	小島 広成	草塩 公彦	今井 直樹	天野 晋	吉村光太郎	湯浅 讓治			
玉井 恒憲	甲賀かをり	川名有紀子	小倉 孝一	岡本 英輝	今村 隆明	天野 豊	阿部 敦	山口 和也	宮内 秀行	溝渕 輝明	前田 仁士	東 守洋	松井由紀子	野村 知弘	武田 真一	陣内 彦良	陣内 彦良	伊藤 憲司	久保木 知	平10	吉田 一也	河野千代子	星山 瑠	外浦 功	高森 尉之	諏訪園 靖	齋藤 武	香西由美子	門野源一郎	小高 謙一	大鳥 精司	鶴飼 伸一	山口 淳一	増田 真一	福田 和司	原 佳奈子	
椎名 明大	長谷川宏美	矢野浩二朗	三村 尚也	松浦 玄	所 知加子	新保 正貴	清田 昇	岡本 明子	上野 直之	井上祐三朗	森 有紀	片桐 明	榎原 雅代	有川 俊輔	平16	柳澤 如樹	花岡 大資	新津 富央	高柳 俊作	鈴木英一郎	嘉納 寛人	上原 孝紀	吉井 淳	中島 正之	清水 怜	田中 純子	石橋 啓如	平14	大門 道子	中村 順一	酒井 望	門平 忠之	平13	森谷 純治	野口 美香	寺山 修史	
永井 勝也	高本真己子	齊藤 景子	金井 慎一	秋山 類	平18	渡辺 美佳	野村征太郎	仙波 宏章	薄井 正俊	平17	松木 悟志	片桐 明	榎原 雅代	有川 俊輔	平16	柳澤 如樹	花岡 大資	新津 富央	高柳 俊作	鈴木英一郎	嘉納 寛人	上原 孝紀	吉井 淳	中島 正之	清水 怜	田中 純子	石橋 啓如	平14	大門 道子	中村 順一	酒井 望	門平 忠之	平13	森谷 純治	野口 美香	寺山 修史	
野村 亮太	田所 重紀	高市 麻貴	木村 敦史	加藤 真優	安戸 一皓	羽田 明	関根 憲治	荻野 彰	公衆衛生学	熱海佐保子	環境生命医学	能川 浩二	杉山 雅彦	岡山 康志	内野 大	柳澤 如樹	花岡 大資	新津 富央	高柳 俊作	鈴木英一郎	嘉納 寛人	上原 孝紀	吉井 淳	中島 正之	清水 怜	田中 純子	石橋 啓如	平14	大門 道子	中村 順一	酒井 望	門平 忠之	平13	森谷 純治	野口 美香	寺山 修史	
伊賀恵美子	麻酔学	佐藤 彌生	法医学	安戸 一皓	羽田 明	関根 憲治	荻野 彰	公衆衛生学	熱海佐保子	環境生命医学	能川 浩二	杉山 雅彦	岡山 康志	内野 大	柳澤 如樹	花岡 大資	新津 富央	高柳 俊作	鈴木英一郎	嘉納 寛人	上原 孝紀	吉井 淳	中島 正之	清水 怜	田中 純子	石橋 啓如	平14	大門 道子	中村 順一	酒井 望	門平 忠之	平13	森谷 純治	野口 美香	寺山 修史		
高地 光世	茂谷 久子	水野 武昭	竹腰 昌明	小山 虎信	森 千里	井上 勝博	北原 漠	宇野 司	菅谷 茂	喜多 和子	橘 正道	永井 道	海村 朋孝	平25	下 恭平	平23	竹本 直輝	平22	吉村 晶子	森本 侑樹	平21	武内 祥子	有川 理紗	平20	吉村 健佑	武藤 剛	砂原 暁子	関澤 京	平19	増田 涉	渡邊 大智						

河野 治 呼吸器内科学
清水 栄 宮崎 瑞明
橋爪 一光
診断病理学
田那村 宏 中谷 行雄
神経生物学
小平 昌
代謝生理学
桑木 共之
眼科学
石渡 東海 大原 むつ
柿栖 米次 水野谷 智
高綱 陽子 山中三子代
渡部 美博
脳神経外科学
石川 徹 永野 修
遺伝子生化学
芦野 洋美 岩瀬 克郎
日和佐隆樹
腫瘍病理学
石井源一郎 北川 元生
張ヶ谷健一 古木 新
三方 一澤
泌尿器科学
石引 雄二 大隅 信幸
梶本 伸一 茂田 安弘
鈴木 文雄 富岡 進
角谷 秀典 真鍋 溥
病原分子制御学
野田 公俊
薬理学
井上 優 門田 健
中谷 晴昭
感染生体防御学
野呂瀬一美 青才 文江
分子生体制御学
守 正英

木村 定雄 細胞治療内科学
池上 智康 風戸 豊
小林 淳二 齋藤 康
清水 公子
臓器制御外科学
岡村 大樹 小林 賢二
佐野 伸 鈴木 啓之
皮膚科学
黒田 啓 伊藤 文子
佐藤 千鶴 松本 英夫
分子病態解析学
米満 博
形態形成学
年森 清隆 豊田二美枝
外山 芳郎 森山 行雄
発生生物学
齋藤哲一郎
動物病態学
伊勢川直久 伊藤 勇夫
生殖機能病態学
小野寺 勉 葛田 憲道
小林 章弘 生水真紀夫
芳野 春生
遺伝子制御学
齊藤 隆 中島 裕史
宮武昌一郎
分化制御学
内田 昭夫 近藤 正大
免疫発生学
中山 俊憲
小児病態学
阿部 博紀 花城恵美子
太田 節雄 忍足美代子
金澤 正樹 川上 武子
上林 直子 多田 裕司
露崎 俊明 渡辺 福
整形外科学

小野崎 晃 篠原 寛休
鈴木 弘祐 武内 重樹
田波 秀文 土屋 恵一
渡邊英一郎 齋藤 康
耳鼻咽喉科学
岡本 美孝 鎌田慶市郎
亀谷 秀夫 小関 洋男
橘 昌孝 寺田 修久
山越 隆行 三橋 麗子
腫瘍内科学
足立 公代 内山 幸信
宇野沢隆夫 奥田 桂子
越後貫道子 川島柳太郎
久原 厚生 小林千鶴子
佐久間 淳 及川 貞
須田 恵 多田 式江
寺田 洋臣 馬場 勇次
日暮 協 矢沢 孝文
米満 裕 伊藤 俊夫
精神医学
日下 忠文
放射線医学
荒居 龍雄 伊東 久夫
遠山 富也 中村 修
呼吸器病態外科学
恒元 博 中島 崇裕
吉野 一郎
細胞分子医学
岩間 厚志 太田 要生
循環病態医学
江原 和枝 小室 一成
杉林 昭男 元山 妙子
宮内 郁枝 諸岡 信裕
臨床分子生物学
石山 信之 鶴澤 一弘
内山 清春 大木 保秀
小河原克訓 小野 可苗
木村 孝雪 工藤 逸郎

新るのほな同窓会館設立事業会募金状況報告書

平成26年7月31日現在

寄付者	千葉大学基金		るのほな同窓会寄付金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	154	52,109,000	16	3,440,000	170	55,549,000
教職員 (元職員も含む)	225	26,264,000	121	4,190,861	346	30,454,861
同窓会会員	1,826	129,589,000	1,095	43,401,383	2,921	172,990,383
後援会会員	94	5,483,000	54	3,775,000	148	9,258,000
合計	2,299	213,445,000	1,286	54,807,244	3,585	268,252,244

大川 和子 元山 逸功
佐藤 匡司 生命情報科学
嶋田 健 椎葉 正史
翠川 鎮生 高橋美恵子
盛永 智子 横江 裕一
先端応用外科学
松宮 護郎 心臓血管外科学
伊賀 浩 飯寄 奈保 手術部
久保田 亨 総合診療部
篠原 靖志 生坂 政臣 薬剤部
原田 昇 牧野 治文

るのほな同窓会館建設工事費

平成26年5月31日現在

総工事費	272,722,860
建設費	241,500,000
別途工事費 (木製建具、造り付収納棚等)	15,670,260
外構工事	15,552,600
合計	272,722,860

大森 栄 北田 光一
先端和漢 矢作会代表永野俊雄 (昭30)
笠原 裕司 西千葉医師の会
43クラス会 北田光一教授退官記念事業会
るのほな同窓会 千葉大学医学部脳神経外科学教室
七葉会 (専25) もぐら会
五窓会 (専23) 千葉大学医学部平成4年の会
八千会代表大沢弘和 (専26) 昭和53年卒同期会
葉々会

昭和61年卒同窓会
昭和三十九年卒同窓会
昭和五十二年卒同窓会

地元メディアを上手く活用!

- 記念誌・会報・自費出版・論文集のご用命は地元新聞社のノウハウを!
- ニュースや情報の提供もお待ちしています!

県紙 千葉日報

コミュニケーション局企画事業部
TEL 043-227-0066
FAX 043-222-3040

~まさかの休業への備え~

東京海上日動が提供する超ビジネス保険の
地震休業補償

「開業されている」もしくは「開業される」先生方には、「会員総合補償制度」だけでなくこちらも必要です。詳しくは(株)パイオニアまでご連絡下さい。



<連絡先>

(株)パイオニア 電話:0120-36-8442



ハートマッチングな求人情報サイト

千葉県ドクターバンク

千葉県ドクターバンクとは

千葉県内の医療機関とドクターの皆さまをつなぐ、ドクターのための無料職業紹介機関です。ご登録されたドクターの皆さまに、千葉県内医療機関の求人情報を公開し、求職のお手伝いをしていきます。

「千葉県ドクターバンク」ご登録はカンタン

<https://www.chiba-dr-bank.org/>

さまざまなサポートが受けられます。



千葉の医療を支える一人に!

ちばのドクター
応援します!

千葉県地域医療支援センター
(千葉県医師キャリアアップ・就職支援センター)

シルバー世代のドクターのための求人情報サイト

千葉県 シルバードクターバンク

千葉県シルバードクターバンクとは

セカンドキャリアを考えるシルバー世代のドクターのための求人データベースです。

千葉県内の医療機関とドクターの皆さまをつなぎ、シルバー人材の活用を図る無料職業紹介事業。

ご登録されたドクターの皆さまに、千葉県内医療機関の求人情報を公開し、求職のお手伝いをしていきます。

「千葉県シルバードクターバンク」ご登録はカンタン

<https://www.chiba-silidr-bank.org/>

さまざまなサポートが受けられます。



千葉県PRマスコットキャラクター
チーバくん



お問合せ・事務局



NPO法人
千葉県医師研修支援ネットワーク

〒260-8677 千葉県千葉市中央区玄鼻1-8-1
千葉大学医学部附属病院 教育研修棟2階
TEL. 043-222-2005 FAX. 043-222-2733
厚生労働省 無料職業紹介事業許可番号 12-4-300012

<https://www.dcs-net.org/>



千葉県許諾 第A305-6号

横江 康夫(昭16)	富岡 清海(昭29)
佐藤 修(昭18)	渡辺 四郎(昭29)
本間 三郎(昭21)	斯波 隆(昭30)
戸沢 澄(昭23)	西村 明(昭33)
中村 忍(専24)	小山 磐(昭38・北海道大)
穂坂 隆義(昭26)	森田 新六(昭38・順天堂大)
本間 彬(専26)	久安 宣昭(昭44)
熊谷 信夫(昭28)	舟橋 紀男(昭44・大阪府大)
小澁 雅亮(昭28)	元山 逸功(昭47・高雄医学)
小林 忠章(昭29)	高橋 義彦(昭61)
実川 浩(昭29)	

お く や み

新みのはな同窓会館がオープンして約半年が経ちました。1階に合宿用の畳の部屋(パーティションでいくつか仕切れます)、2階にはホールと会議室、同窓会事務室などがあり、学生のクラブ活動や各種会議、催し物にと徐々に利用が増えてきているようです。7月18日には、2階ホールで亥鼻地区留学生交流会を開催しました。医学部だけでなく薬学部、看護学部も含めた留学生とその家族、関係者を含めて100名を超える参加者があり、盛会裏に終了しました。同窓会員の皆様にも一度新同窓会館に足を運んでいただき、同窓会等に積極的に活用していただけるようお願いいたします。

さて、同窓会報には定年退職された教授の最終講義の要旨を掲載するのが恒例となっております。この最終講義の掲載に關して編集会議で話題になり、今後は学内だけでなく、他大学を定年退職される教授の先生方の最終講義も取り上げていくことになりました。是非ご寄稿をお願いいたします。また、情報をお持ちでしたら事務局までご連絡をお願いいたします。最後に、今年の東医体でサッカー部が優勝したというビッグニュースが入ってきました。OBの一人としてこの快挙を称え、喜びたいと思います。

織田成人(昭53)



編集委員 写真左から
 前列：横須賀收(昭50)、三木隆司編集長(昭63)、伊藤晴夫会長(昭39)、青木謹(昭36)、坂本薫(昭51)
 後列：幡野雅彦(昭57)、杉田直文(平12)、杉田克生(昭54)、織田成人(昭53)、木元博史(昭61)

千葉医学雑誌90巻3号 2014年6月

総説
 質量分析技術により大きく変貌する臨床検査 野村文夫
 症例
 ESD施行1年後に多発リンパ節転移及び多発肝転移をきたした胃粘膜内癌の1例 関宮俊太 岩瀬裕郷 石井清香 松原久裕

エッセイ
 4月1日の実験 高野光司

らいぶらりい
 アウトカム基盤型教育の理論と実践 白澤 浩
 学会
 第1273回千葉医学会例会・整形外科例会
 第1280回千葉医学会例会・第31回神経内科教室例会

OAP要旨
 変形性膝関節症のMRI画像で見られる大腿骨輪郭不整の経年的変化：Irregularity Index Systemを用いて計測したOsteoarthritis Initiative (OAI) のデータを用いた平均14か月のフォローアップ
 松浦 龍 佐孝孝久 山口智志 見日智紀 鶴岡弘章 松木 恵 落合信靖 中川晃一 斎藤雅彦 中口俊哉 三宅洋一 高橋和久

編集後記
 CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
 Original Paper
 Longitudinal changes in irregularity of the contour of the femoral condyle on MRI in osteoarthritic knees employing data from the osteoarthritis initiative (OAI) : assessment at an average of 14 months follow-up using a new indicator of disease severity, the irregularity index system
 Ryu Matsuura, Takahisa Sasho, Satoshi Yamaguchi, Tomonori Kenmoku Hiroaki Tsuruoka, Kei Matsuki, Nobuyasu Ochiai, Koichi Nakagawa Masahiko Saito, Toshiya Nakaguchi, Yoichi Miyake and Kazuhisa Takahashi
 第90回千葉医学会学術大会

千葉医学雑誌90巻4号 2014年8月

最終講義
 免疫記憶の形成と維持 徳久剛史
 原著
 リトアニア共和国法医学研究所における生体法医学
 ー日本での生体鑑定との比較ー
 矢鳥大介 石原憲治 武市高子 Romas Raudys Marija Čaplinskiene Vilija Biržinienė 齋藤久子 早川 睦 咲間彩香 猪口 剛 横野陽介 本村あゆみ 千葉文子 鳥光 優 石井名実子 岩瀬博太郎

話題
 日独シンポジウム「日本とドイツにおける予防医学と公衆衛生」を終えて
 森 千里 柏原 誠 戸高恵美子 鈴木 都 中岡宏子 羽田 明

海外だより
 ペンシルバニア大学留学記 篠崎広一郎
 学会
 第1276回千葉医学会例会・第13回呼吸器内科例会(第27回呼吸器内科同門会)
 第1285回千葉医学会例会・総合安全衛生管理機構研究発表プログラム(第2回桜美会)
 雑報
 心音・心雑音のスクリーニング 関根郁夫
 OAP要旨
 症例の子後改善のための、電子ビームCT、4列~320列CTを用いた循環器領域の新しい臨床診断学の開発への貢献 船橋伸禎
 編集後記 瀧口正樹

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
 The Chiba Medical Society Award (2013)
 Contribution to development of a novel diagnostic cardiovascular imaging technique using electron beam CT to improve patient prognosis
 Nobusada Funabashi

編 集 後 記